ヌエバでチャンピオンを目指せ!!

国際ハンドボール連盟公認球

日本リーグ唯一の公式試合球

全日本大学選手権（インカレ）
唯一の公式試合球

日本ハンドボール協会検定球

本大会試合球

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H300WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●3号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H200WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●2号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

今一度、目的・理念を明確に

（財）日本ハンドボール協会専務理事　大西武三

何か物事を推し進めていくには、その目標に応じた原動力が必要である。知力・体力・経済力がいる。その力を生み出すもとは、何と言っても、人生をどのように過ごすのか、ハンドボールは自分にとっては何なのかというような哲学というか理念が必要である。この理念や哲学がしっかりしていないと物事に対する確固とした姿勢を保つことができない。では、我々ハンドボールに携わる役員や指導者はどのような考え・理念をハンドボール協会として持ち進んでいけばよいのであろうか。財団法人日本ハンドボール協会寄付行為第３条目的には次のことが記されている。「この法人は、日本におけるハンドボール競技会を統括し、代表する団体として、ハンドボール競技の普及及び振興を図り、もって国民体育の向上とスポーツ精神の涵養に寄与することを目的とする」。これをもう少し具体的に記すとすれば次の５つにまとめられるであろう。

- ハンドボール競技をより魅力のあるスポーツに育てていくこと
- ハンドボールを多くの人たちに知ってもらい、やってもらうこと
- ナショナルチームが国際舞台の中で活躍すること
- ハンドボールを通して青少年の育成に寄与していくこと
- ハンドボールを指導普及していく指導者を育成していくこと

日本協会では、上記目的、理念を実現するために様々な事業を行っているが、これは都道府県協会と連盟が密接に連携し、役割を分担し、あたかも一つのチームのごとくでなければ実現できるものではない。昨年度よりプロジェクト21（以後Pro.21）を立ち上げている。ハンドボール協会が始まって65年の歴史を刻んでいる今、社会状況が大きく変動し、普及も競技力も低迷し、事業も拡大の一途をたどっているが財政難は慢性的である。この現状を捉えてPro.21は、今一度目的、理念を明確にし、それを実現させるための事業とシステムを見直すためのものである。岩井特任副会長のもとに草案が出来ている。連盟、都道府県協会に案の説明をし、意見を聞きながら出来た画期的なものであるが、実行可能な案にするためには、さらに皆様方の意見を聞きながら検討が必要である。

Pro.21は、その発端がアテネオリンピック出場を果たすためには、普及を中心とした構造改革が必要ということで生まれたものである。本年は新学習指導要領が完全実施される年である。日本ではスポーツに接する第一ステップは小学校での体育授業である。ハンドボールは小学生の発育段階期にとって、すばらしい特性を持っているスポーツである。「やってもよい種目」としてハンドボールが小学生の指導要領で取り上げられたのは、「普及のオリンピック」に出たようなものである。何としてもハンドボールを授業で取り上げていただき、全国民にハンドボールを知ってもらう努力をしなければならない。文部科学省も、地域のスポーツ活動を週休二日の過ごし方のプログラムとして推奨している。都会のあるところでは、登録競技人口が10年前から急激に減少し、約半分になっているところがある。これは極端な例であるが全国的に見ても平成６年の９万人から２万人減少し７万人になっている。実に22％の減少である。少子化等いろいろな要素はあるが、大変に危惧せざるをえない数字である。今後とも学校体育を中心とする発展を強化する一方で、各市町村を中心とした地域のスポーツクラブの発展も平行してやっていかなければならない。小学校など授業でのハンドボールの実践が学校スポーツのみならず、地域ハンドボールに好影響を及ぼし、学校スポーツと地域スポーツが共存、融合する背景になってほしいと願っている。

アテネ特別強化委員会、がんばれ10万人会サポート会、NTS（ナショナルトレーニングシステム）、特別普及委員会など、将来に向けての夢や現在の荒波を乗り越えるために設置された事業も、皆さん方のご理解・支援をえて、軌道に乗り始めています。また今年も国内的・国際的に多くの事業が展開されていきます。皆でハンドボールを盛り上げていくべくご支援のほどよろしくお願いします。

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2002

Aグループ・大阪ガス
Bグループ・デンソーファドレスが優勝

【開催日時／場所】

Ａグループ：平成14年２月９日、10日
三重県鈴鹿市ホンダアクティブランド
Ｂグループ：平成14年２月15日～17日
福井県松岡町北陸電力フレア体育館

【概　要】

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2002は大会名やシステムを変化させながら開催をして、通算で33回を数える大会となりました。以前は全日本実業団トーナメント大会として平成７年まで開催し、その後チャレンジと名前を変えて７回目となりました。その歴史の中には、現在日本のＴＯＰで活躍している殆どのチームがしのぎを削って大きく成長してきた、いわば登竜門的な大会として位置付けされています。男子では同じ全日本実業団ハンドボール連盟主催の、国内４大大会の一つでもある、高松宮杯・全日本実業団ハンドボール選手権大会の予選を兼ねた大会でもあります。このチャレンジ大会の上位３チームが、上記選手権大会への出場権を得る事ができます。女子に於いては、チーム数が固定しているため、平成11年のチャレンジ99を最後に参加を取りやめています。よって、平成12年より男子のみの大会となっています。

平成12年大会のチャレンジ2000より、ＡグループとＢグループの２グループに分けて開催するようになりました。２つのグループに分けた主旨は、本来の上位チームとの対戦を望むＡグループと、実業団連盟に所属しているが、全国の実業団ハンドボールの愛好者と親交を深め楽しみながら活動をしているＢグループに分けることにより、試合の内容で接戦が多くなり、選手の励みになるような大会を狙っています。

試　合　結　果

Aグループ　　＊4チームによるトーナメント

《準決勝第１戦》

大阪ガス　24（11－9 / 13－12）21　金沢市役所

開始２分半は両チーム硬い守りで攻防が続いたが、大阪ガス10番の向井選手が得点をしてから試合が動き始めた。その後川野選手が２点目となるシュートを決め連取するが、金沢市役所もすかさず松本選手と吉藤選手が得点をし、白熱した展開になると思われた。しかし、８分過ぎから大阪ガスの猛攻が始まり、２点連取のあと４点連取と前半15分で８対３と大きくリードした。このまま大阪ガスのペースになると思われたが、金沢市役所の大壁選手らの頑張りでその後４点連取等で追い上げ、前半を２点差まで差を詰めた。後半も一進一退の攻防が続き、10分過ぎには15対15の同点となるが、大阪ガスは日本リーグで揉まれているため、小刻みに加点し粘る金沢市役所を振り切った。

《準決勝第２戦》

八光自動車　26（13－6 / 13－9）15　豊田合成

八光自動車は須藤選手と奥選手らの活躍で、前半15分で９対３と大きくリードしたのに対し豊田合成は必死に追い上げるが、単調な攻めとミスが連続してでてしまい、なかなか差を詰めることができない。後半に入っても、八光自動車はフローターを中心に、ポストとの関連を重視して着実に加点していった。豊田合成はあせりが出て、本来のス

ピードある試合展開に持ち込めず苦戦を強いられ、最後まで相手ディフェンスを崩せなかった。

《3位決定戦》

金沢市役所 24（11－7 / 9－13 /（延長）/ 3－0 / 1－2）22 豊田合成

この試合の勝者が高松宮杯実業団ハンドボール選手権大会への切符を得る事で、両チーム共に気合が入った試合展開となった。終始、金沢市役所のペースで試合が進んで行ったが、後半に入って豊田合成も日本リーグの意地を見せ、残り1分で佐藤選手が得点を決め、その後30秒間守り、マイボールにして最後残り15秒で豊田合成の高間選手が、右から得点して延長戦へともつれ込んだ。延長戦の前半は息を吹き返した金沢市役所が本日絶好調の大壁選手の7mスローなどで3点連取し優位に展開した。後半は豊田合成も奮起し1点差まで追い上げたが、残り30秒で金沢市役所の大壁選手にとどめの得点を決められ、万事休す。

《決勝戦》

大阪ガス 28（14－9 / 14－8）17 八光自動車

既に、高松宮杯実業団ハンドボール選手権大会への切符は得ている両チームであるが、優勝を求めモチベーションを上げた試合展開が予想された。前半20分まで予想通り6対6の接戦であったが、大阪ガス八幡選手の小気味のいいシュートが決まり、3点をリードし前半終了間際の7mスローを大阪ガスGK嶋崎選手がはじき返しチームが盛り上がった。前半は14対9の5点差で大阪ガスリードで終了した。後半に入ると大阪ガスの猛攻があり、開始13分で6点連取し大方の勝利を手中にした。八光自動車も懸命に服部選手や、須藤選手らが応戦するが単発的になり大勢を変えることが出来なかった。最終的には28対17で大阪ガスが貫録勝ちで優勝を手にした。

Aグループ最終結果

優　勝　大阪ガス
準優勝　八光自動車工業
3　位　金沢市役所
4　位　豊田合成

上位3チームは平成14年度実業団選手権へ出場

Bグループ　＊15チームによるトーナメント

《1回戦総評》

昨年優勝の自衛隊久里浜は、田代選手の活躍で住友金属和歌山の挑戦を退け、危なげない試合展開で勝利した。しかし、昨年準優勝のセントラル自動車はマツダと接戦の末、逆転負けを喫して早くも1回戦で姿を消した。マツダは今大会の台風の目であった。その他、昨年度3位の常陽銀行と豊田自動織機もあぶなげなく1回戦を突破した。又、初陣の日石三菱が元気良く1勝をものにした。

《敗者戦総評》

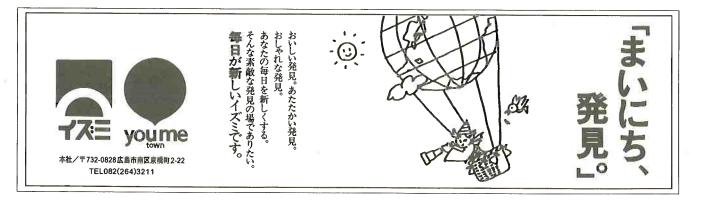
1回戦で敗退したチームで敗者戦を実施した。各チーム共、実力伯仲で好ゲームが展開された。

その中でもやはり、セントラル自動車は群を抜いており、勝ち上がってきたブラザー工業男子を最終戦で26対16で退け、昨年2位の面目躍如となった。

《2回戦総評》

本年度の実業団選手権で活躍したデンソーファドレスが2回戦より姿を表わした。やはりTOPチームと対等に戦ってきただけあり、試合運びに無駄が無く随所でキラリとひかるプレーがあり、さすがという感じがした。1回戦でセントラル自動車を破ったマツダも、初陣の日石三菱を前半からリードし最終的には、14点差にて勝利を収めた。自衛隊久里浜と豊田自動織機も順当に勝利を収めた。

《準決勝第１戦》

デンソーファドレス　29（15―9／14―3）12　マツダ

デンソーファドレスとマツダの試合は、立ち上がりから好調を維持するマツダが３点連取するなど戦前の予想とは違う展開となった。前半12分にデンソーファドレスの飯山選手が同点シュートを決めるまで、一進一退の攻防が続いた。しかし地力に優るデンソーファドレスは徐々にペースを掴み、16分過ぎに１点勝ち越してからは、３点連取のあと４点連取と一気に優位に立つ展開となった。前半は15対９と６点差にてデンソーファドレスリードで終わった。後半に入るといきなりデンソーファドレスが５点連取でほぼ試合を決定付けた。終わってみれば、29対12であるがマツダの健闘が光る１戦であった。

《準決勝第２戦》

豊田自動織機　16（６―７／10―８）15　自衛隊久里浜

前半立ち上がりより、両チームの守りが堅くなかなか得点できずロースコアーの対戦となった。前半は自衛隊久里浜の１点リードで終わり、後半に勝負が移った。後半立ち上がりすぐに自衛隊久里浜の細谷選手が決めて２点リードしたが、その後10分間に豊田自動織機が４点連取して逆に２点リードする形となった。その後も自衛隊久里浜が３点連取して再逆転したりで、手に汗握る展開となった。自衛隊久里浜は細谷選手にボールを集め果敢に攻め込み、豊田自動織機はバランスよくコート一杯使い攻撃する対照的な展開となった。残り１分で２点差とした豊田自動織機が最後まで粘る自衛隊久里浜を突き放した。自衛隊久里浜の細谷選手は10得点挙げる活躍だったが残念ながら勝利を呼ぶ事ができなかった。

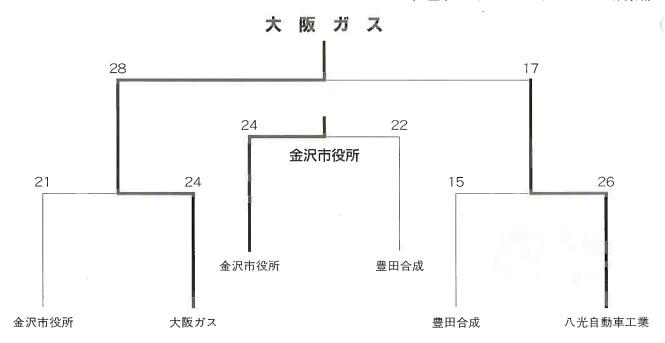
《３位決定戦》

自衛隊久里浜　19（８―10／11―８）18　マツダ

この試合も前半よりもつれにもつれシーソーゲームになった。マツダは藤田選手、舛本選手、谷口選手にボールを

集め、フェイントからのキッカケでディフェンスを崩す作戦であり、自衛隊久里浜は早いパス回しから攻撃するパターンで互角に戦ってきた。前半はマツダの２点リードで折り返し、後半は自衛隊久里浜が５分で追いつきその後は、取って取られの白熱した展開となった。残り５分でマツダが同点に追いつき、１回守りシュートを放ったが惜しくも外れ勝ち越しできなかった。その直後自衛隊久里浜が残り

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2002大会　結果

Ａグループ　平成14年2月9日～10日
（三重県ホンダ・アクティブ・ランド体育館）

3秒で星選手が劇的なシュートを決めて、幕切れとなった。両チームとも力の限り精一杯戦った爽やかな試合でした。

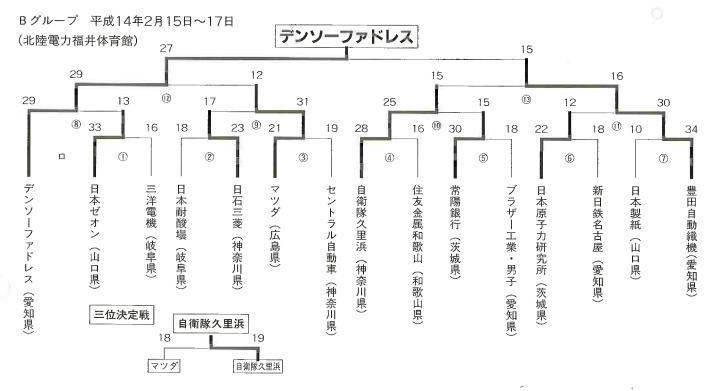
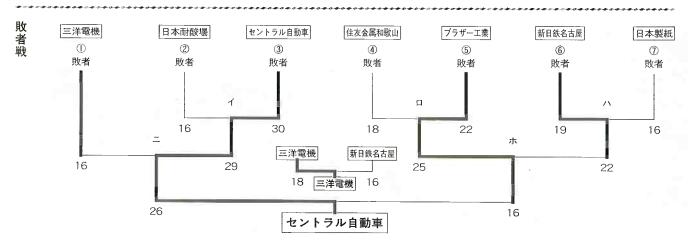
《決勝戦》

デンソーファドレス 27（14－9／13－6）15 豊田自動織機

デンソーファドレスのスローオフで試合開始されたが、いきなりデンソーファドレスの選手が警告を受け、先に点を取ったのは豊田自動織機であった。だが、デンソーファドレスはパスを速く回し、ズラシから点数を決め7分間で6点連取し勢いに乗った。しかしその後は一進一退の攻防が続き前半を14対9でデンソーファドレスがリードで折り返した。後半に入っても、デンソーファドレスの勢いは止まらず、山内選手、飯山選手、梅井選手らが、着実に加点していき、デンソーファドレスの一方的な試合となった。豊田自動織機の熊谷選手も1人、気を吐いたが単発に終わり、27対15でデンソーファドレスがチャレンジ99以来の2回目の優勝を飾った。

Bグループ最終結果

優　勝	デンソーファドレス
準優勝	豊田自動織機
3　位	自衛隊久里浜
4　位	マツダ

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2002大会 結果

第10回アジア選手権大会兼世界選手権アジア予選報告
日本は6位に

アジア選手権選手団団長　緒方　嗣雄（強化部長）

東西アジア別々に開催されていたアジア選手権大会も、今大会より一同に会して開かれ盛り上がりも予想された。アフガンの問題から不安を残す中東国際情勢での大会であり、参加には色々議論を重ね、現場強化を第一と考え参加することとなった。

この参加に対しては、日本リーグの試合日程変更をお願いすることにより、国内合宿、現地調整を行い大会にのぞむことができた。

大会の優勝と、ポルトガルで開催される世界選手権出場権（上位３チーム）獲得を目標に大会にのぞんだ。

３位以内の目標のためには、Ｂグループで２位以内に入り、決勝トーナメントにて３位決定戦の勝利が最低条件である。同じグループの韓国、サウジアラビアに２勝か１勝１分で問題なく、１勝１敗では三つ巴があり総得失点となりトーナメント出場が困難となる。最悪でも１勝１敗の戦いをするため、韓国のアタックＤＦに対する攻撃方法、サウジのスピード攻撃と当たりの激しいＤＦに対してのチーム戦術のトレーニングに時間を費やした。

（1）直前合宿

- １月28日、所属での試合を終わり、その足で合宿地大崎電気へ集合。韓国、サウジアラビア戦に備え、戦術トレーニングを31日まで、２月１、２日は大崎電気とトレーニングマッチ、２月３日には協会主催により壮行会（スポンサーを招待）。４日出発、５日イラン(イスファハーン)到着。午後より現地トレーニング、高地(標高1500ｍ)に慣れる身体慣らしと時差調整が中心となる。気候的には日本と変わらないが、空気は乾燥気味である。２月７、８日の両日、イランとトレーニングマッチを行い10点、６点差の勝利で順調に調整を終了した。
- 心配された治安も安定しており、ホテルでの生活も食事も快適であった。今回特別に日本食を準備したが、それに頼ることはなかった。
- チームの仕上がり状態もよく、個人のモチベーションも上がって試合に備えることができた。

（2）大会開催に関して

- テクニカルミーティングは、現地語で行われ、通訳も付かないので試合の順位決定方法、世界選手権参加の件、パスポートチェック、ユニホームの決定（隣の席にAHF、PRCメンバーのカラフ氏(クゥエート)が英語で通訳）後はティパーティーと簡単なミーティングであった。
- 開会式：２月10日、第一試合と第二試合との間に開催された。軍隊の音楽隊と先導により、各国の代表５名による入場行進と民族舞踊が披露された。挨拶等はなく、すぐ開幕試合となる。

（3）試合結果

- 日本チームの試合に関して

［Ｂグループ］

日　　本　20－23　韓　　国

韓国は大会にケガ人が多くベストメンバーではないと金監督の弁。いつもの元気を感じない韓国チームであるが、試合となると白選手の活躍でリードしていく。日本も後半に入り同点からリードを奪うチャンスのノーマークシュートを再三外し、リードを奪えず、逆に終了間際に連続得点を許し、3点差をつけられ敗戦となる。リードする時のシュートチャンスを決めることができず、自滅した試合内容であった。韓国に対しての戦術、スローペースの試合展開が成功したものの、シュートチャンスを生かせなかったことがすべてである。

日　　本　20－18　サウジアラビア

試合開始よりロング、ミドルシュートがよく決まりリズムを掴みかけたところにサウジアラビアの厳しい当たりが始まった。シュートのボールに対してのアタックでなく、顔面アタックの連続であり、中川、田場選手は鼻血を出してリタイア、審判の判定はプッシングのみであった。多少納得のいかないレフェリングが続いた。日本の選手が我慢した試合であり、2点差で逃げ切った。韓国との失点を考えるともう少し開きたかった試合である。最後はサウジアラビアの粘りで開かなかったのが悔やまれる。

この試合で、ヴォルコーチがコートに入場したことと、本部にアタックした行為で退場、レッドカードとなり、2試合出場停止と1000ドルの罰金を課せられた。

［5、6位決定戦］

日　　本　25－29　イ　ラ　ン

練習試合で2連勝したものの本番で敗れる。2月15日、韓国対サウジアラビア戦の試合結果、決勝トーナメントに行けなかったことがすべてで、戦う意欲が薄れモチベーションが下がってしまった。緒戦の韓国戦と同じように追いつくチャンスシュートを外し、リードすることなく敗戦。

(4) チームの現状

ほぼポジションが固定してそれぞれ選手の持ち味が生かされている。攻撃は仕掛けが遅いがスピードに関しては問題なく、昨年4月より国際試合を重ねチーム力がついてきた。今回の戦術は、対韓国、対サウジアラビア戦の為のスローテンポ戦術から、スピードの切り替えがスムーズにいかず得点力も落ちてきた。攻撃の展開上から茅場選手(左)のケガによる欠場が大きい。

防御に関しては大型選手が活躍して安定している。

攻防の選手交替が攻撃リズムにも影響がある。若手（宮崎、内田）の活躍もあり、飛躍できる可能性が高く、更に経験を積めば強いチームになる。

(5) 総　括

試合は勝つことがすべてである。負けて言い訳をしても何もならないことは充分わきまえています。スタッフ、選手は力一杯戦いました。この悔しい思いを忘れることはなく、練習、試合を重ね努力して次のチャンスを目指します。環境により試合結果が左右されないクリーンなハンドボールが行われるよう日本ハンドボール協会として対処していくよう念じます。

団長	緒方嗣雄	おがた つぐお	(財)日本ハンドボール協会
副団長	近森克彦	ちかもり かつひこ	(財)日本ハンドボール協会
〃	斉藤実	さいとう みのる	(財)日本ハンドボール協会
監督	田口隆	たぐち たかし	(財)日本ハンドボール協会
コーチ	S.コワルスキー	スタニスラフ コワルスキー	(財)日本ハンドボール協会
〃	フレデリック・ヴォル	フレデリック ヴォル	本田技研
ドクター	加藤公	かとう こう	三重大学
トレーナー	赤尾和彦	あかお かずひこ	トレーナーズ・フォー・アスリート

	氏名	ふりがな	所属先名	生年月日	身長	体重	出身大学	出身高校	出身地
1	坪根　敏宏	つぼね としひろ	湧永製薬	1973. 6. 4	187	92	福岡大	久留米工附	福岡県
12	四方　篤	しかた あつし	本田技研	1972. 5.12	190	95	大体大	北陽高	大阪府
16	橋本　行弘	はしもと ゆきひろ	〃	1965. 9.17	186	90	—	岡崎城西高	愛知県
2	松林　克明	まつばやし かつあき	大同特殊鋼	1977.10.23	181	73	日体大	桃山学院	大阪府
3	内田　雄士	うちだ たけし	GRANOLLERS	1981. 6.27	182	73	—	熊本市立商	熊本県
4	佐々木教裕	ささき のりひろ	本田技研	1974. 4. 8	192	99	日体大	拓大第一	東京都
5	野村　広明	のむら ひろあき	トヨタ車体	1975. 2.13	177	80	国士館	大分電波	大分県
6	池辺　健二	いけべ けんじ	本田技研	1974. 9.19	192	97	大体大	久留米工附	福岡県
7	宮崎　大輔	みやざき だいすけ	GRANOLLERS	1981. 6. 6	174	70	—	大分国際	大分県
11	中川　善雄	なかがわ よしお	大崎電気	1974. 8. 9	180	83	中央大	九州学院	熊本県
13	羽賀　太一	はが たいち	本田技研	1974. 6.26	192	90	中京大	京都両洋	京都府
14	田中　将	たなか まさし	本田技研熊本	1976. 1.17	172	73	日体大	伊奈高	茨城県
15	阿部　展行	あべ のぶゆき	本田技研	1975. 8.30	180	74	法政大	横浜商工	神奈川
18	山口　修	やまぐち おさむ	湧永製薬	1972. 2.28	191	98	大体大	西宮南高	兵庫県
20	田場　裕也	たば ゆうや	〃	1975. 9.12	183	86	日体大	興南高校	沖縄県
21	下川　真良	しもかわ まさよし	〃	1976. 6.23	171	65	大体大	北陽高	京都府

第10回 アジア選手権兼世界選手権 アジア予選を終えて

全日本男子ハンドボールチーム監督　田口　隆

1．選手構成について

昨年末から実施したフランス遠征でのメンバーの中より、大半のメンバーを選出。

GKについては坪根・四方を中心に8人目の選手の育成に力を注いできたものの、両名に並ぶ選手の台頭がなく、万が一どちらかにアクシデントが発生した場合のことを考え、また、チームの精神的な柱としてベテランの橋本を選出。

バックプレーヤー陣では、東アジア大会以降、チームの中心的役割を果たしてきた田場・中川・野村・佐々木に加え、スペイン留学中でフランス遠征時に中川・野村が負傷し、試合に出場できなかった時にポーランドに勝利した活躍から、宮崎を選出。

この他にチームの貴重なサウスポーとして活躍が期待された茅場がフランス遠征時に負傷したことから、急遽サウスポーの補充を要請したものの、受諾されずサウスポーのバックプレーヤーのいない構成となった。

ポストには、キャプテンの山口・池辺の両大型選手を選出。

左サイドにはスピードの有る下川とポストも出来る松林を選出。右サイドにはディフェンス力の有る阿部・速攻のスピードがある田中・シュート力があるスペイン留学中の内田を選出。

ディフェンスのスペシャリストとして大型の羽賀を選出。

2. 試合での戦術について

基本となる戦術はＤＦでは相手選手に大きなスペースを与えない６－０システムを採用。しかしながら６ｍ付近に下がり守るのではなく、６～９ｍの間をアグレッシブに守り、横の選手とのポジションチェンジをしないでマークチェンジをし、ゴールに対して壁を造り、ＧＫとのコンビネーションで相手シュートを防ぐ形を取った。ＯＦ専門選手が交代できない場合は５－１ＤＦを一時的に取ることもあった。

ＤＦから速攻に移行する場合に２人のポストプレーヤーが多くの場合いたため、Ｗポストでの２次速攻を組み立てた。２次速攻においてはスピードより、良い位置取り・タイミング等を優先させる様、指示をした。(スピードが不必要ということではなく、安全にプレーする為に、まず優先させることとして指示した。)

セットＯＦについてはパラレルの動きでチャンスを創ることを徹底した。(この場合パラレルの攻撃がスタートする前にボールがある所・無い所でポジションチェンジをして相手ＤＦを幻惑してから行う。)サイドプレーヤーもシュートを打つだけではなく、ボールが入らない時にはポストへポジションチェンジをするといった様な動きで相手にプレーを読まれない工夫をする。ポストプレーヤーについては６－０ＤＦに対して相手ＤＦプレーヤーを分断させフローターに有利なスペースを与えることを徹底した。３－２－１ＤＦ等に対してはパラレルの攻撃と下の広いスペースを使うためにWポストでの攻撃をとった。また、ボールを保持してからのプレーが多く、ボールを保持しない選手がプレーすることを指示した。

相手の速攻に対しては、“バックチェック”と呼び、チームの中で共通する言葉として使い、意識をするようにした。これはＯＦからＤＦに移行する際に６ｍラインまで戻って守るのではなく、高い位置で相手の速攻を止めることとした。その後相手の速攻が止まったことを確認して本来のＤＦポジションに帰ることとした。

以上が基本となるディフェンス～速攻～セットオフェンス～バックチェックまでのチームの戦い方を徹底した。

3. 戦術に対しての準備（合宿・トレーニング）

全日本総合後、国内強化合宿を実施し、９月までに実施してきた戦術の反復トレーニングをし、フランスへ遠征に行った。

フランス遠征では、アジア予選を想定し、アグレッシブなディフェンスをするチームを対戦相手に選び、戦術のチェックを実施した（６試合）

直前強化合宿については、スペインから宮崎・内田の両選手も帰国し参加できた。しかし、日本リーグのスケジュールの変更が困難なことから、出発まで16名全員が揃っての調整とはならなかった。

4. 試合の成果について

今大会はアテネオリンピック大会に出場という大きな目標に対する過程として大変重要な大会で、世界選手権出場権獲得を合言葉にチーム全員が高いモチベーションを持ち臨んだ。

成果については、対韓国については今まで前半に差を広げられ、後半追い上げる展開や、そのままずるずると相手ペースのまま差を縮められず敗戦していたが、今回は相手選手へのコンプレックスもなく55分間戦えた。当然、ハンドボールは60分間戦うスポーツであり、満足いくものではなかったが実力差は縮まったという自信が、チーム内に出てきたことが大きな成果に思われる。

対サウジアラビアについては、度重なる相手選手の暴力的なプレーに対しレフェリーがそれをコントロールできない中で、中川・田場・宮崎のバックプレーヤー陣が、負傷を負いながらも怯むことなく、プレーする姿にチーム全体が引っ張られた。戦う強いリーダーの姿が見られた。

ディフェンスのスペシャリストとして羽賀を起用したことにより、ディフェンスでの柱が出来、そこを中心にコミュニケーション・コンビネーションの向上が図られた。

5. 今後の対策について

アジア大会を目指す中で、今回の反省部分である基本プレーの精度アップに多くの時間を費やし、チームの仕上げを９月に入ってからの時期に行うぐらいのプランが最適ではないか。(この間にアジアサーキット・フランスシリーズ・欧州遠征と試合を重ねていくが、チーム全体でのプレーは現行のままにとどめ、個人ないし少数でのコンビプレーの精度アップを図る。)

◆ディフェンス

・バックプレーヤーのディフェンス向上
（現在、宮崎・野村はディフェンスでは力不足のため試合において使えず、10名のコートプレーヤーのうち真ん中のディフェンスができるものが少なく、中川・田場に負担がかかっている。)
・サイドプレーヤーのディフェンス向上
・大型選手の更なるパワーアップ
・アグレッシブなディフェンスでの姿勢の体得

◆オフェンス

・バックプレーヤーのシュート力向上
・サイドプレーヤーのシュート力向上
・ポストプレーヤーのスピード向上およびアグレッシブな攻撃姿勢
・ボールがない状態でのプレーの質の向上
・速攻の精度向上
・サウスポーバックプレーヤーの確保(茅場の復帰など)

◆全　体

・60分間プレーできる選手の育成
・心肺機能の向上
・パワーの向上

・試合経験を更に積む
(対戦相手のレベルを上げる/大会出場の機会を増やす/アウェーでの過酷な試合環境など)

6. まとめ

韓国戦での敗戦・サウジアラビア戦での2点差での勝利により、準決勝に進めなかったことに関しては、大変残念なことであり、監督として責任を感じております。

しかし、チームとしては今回選出されたメンバー16名を中心に上昇傾向にあることも事実である。今後の強化に関しては、現場だけでなく日本ハンドボール界全体で考え、実行していかなくてはクリアー出来ないハードルではないでしょうか。

最後に、強化計画を実行させていただいた中での多くのご支援に対し、厚くお礼申し上げます。

試合結果　期　日　2002年2月10日～19日
場　所　イラン・エスファハーン
参加国　A Group　クウェート・カタール・バーレーン・イラン
B Group　韓国・日本・サウジアラビア

【A group】　1位 クウェート　2位 カタール　3位 イラン　4位 バーレーン

	KUW	IRI	QTA	BRA	数	勝	引	負	得点	失点	差
KUW		19●26	19○18	29○24	3	2	0	1	67	68	－1
IRI	26○19		23●26	26△26	3	1	1	1	75	71	4
QTA	18●19	26○23		10○0	3	2	0	1	54	42	12
BRA	24●29	26△26	0●10		3	0	1	2	50	65	－15

対戦カード結果によりクウェート・カタール上位2チームが準決勝に進みます。

【B group】　1位 韓国　2位 サウジアラビア　3位 日本

	KOR	KSA	JPN	数	勝	引	負	得点	失点	差
KOR		28●30	23○20	2	1	0	1	51	50	1
KSA	30○28		18●20	2	1	0	1	48	48	0
JPN	20●23	20○18		2	1	0	1	40	41	－1

総得失点差で韓国・サウジアラビア上位2チームが準決勝に進みます。
◆vs韓国　個人得点　宮崎 7、中川 4、田場 3、野村・山口 2、阿部・羽賀 1
◆vsサウジアラビア　個人得点　田場 9、宮崎 7、中川 2、下川・佐々木 1
※ KUW(クウェート)　IRI(イラン)　QTA(カタール)　BRA(バーレーン)　KOR(韓国)　JPN(日本)　KSA(サウジアラビア)

【準決勝】　2002年2月17日
A group 1位　クウェート　30－27　サウジアラビア　B group 2位
B group 1位　韓　国　23－38　カタール　A group 2位

【5・6位決定戦】　2002年2月18日
A group 3位　イラン　29(16-13, 13-12)25　日　本　B group 3位
◆個人得点　野村 6、田場・内田 4、池辺・松林・山口・羽賀・宮崎 2、田中 1

【3・4位決定戦】　2002年2月19日　PM15：00
サウジアラビア　38(17-14, 21-19)33　韓　国

【決勝】　2002年2月19日　PM17：00
クウェート　29(14-10, 15-15)25　カタール

【結果】　1位 クウェート　2位 カタール　3位 サウジアラビア　4位 韓国
5位 イラン　6位 日本　7位 バーレーン

◆日本チーム　宮崎大輔選手がベストセブンに選出されました。

フランス遠征を終えて

全日本男子ハンドボールチーム監督 田口 隆

1. 遠征実施期間等

期間：2001年12月27日～2002年1月11日
場所：フランス（モンペリエ・ルマン・バニュルス）
対戦相手：Montpellier（フランスリーグ1位）
Angers（フランスリーグ8位）
PSG（フランスリーグ4位）
Dunkerque（フランスリーグ3位）
Toulouse（フランスリーグ6位）
Poland National（ヨーロッパ選手権出場）

この他にもアルジェリアナショナルとの試合と合同トレーニングを計画したが、フランス入国に際してのビザ取得に関して手続き上のミスがあり、土壇場でキャンセルとなる。

2. 今遠征の目的・目標

世界選手権アジア予選を勝ち抜く為に、アグレッシブさを身に付ける。
（ワンランク上のチームとの対戦）

アジア予選で対戦するアラブ諸国を想定してアグレッシブなディフェンスシステムをとるであろうチームを対戦相手として選択し、3－2－1ＤＦ・5－1ＤＦ等に対するオフェンスシステムを確立する（今年度上期については、オフェンスに関しては6－0ＤＦに対してのシステム確立を主に実施してきた）。

3. 選手構成について

今遠征については、2月に開催される世界選手権アジア予選に向けての最終チェックとして実施した。ポイントとしては四方・坪根に加えて3人目のゴールキーパーの選択として、吉田（本田熊本）を起用。次にサウスポー選手の補強としてスペイン留学中の内田（グラノリエス）を呼んだ。内田については事前に所属チーム監督へ連絡を入れ、評価を確認し、現地での評価も良く決定した。3番目としてバックプレーヤーの補強として、今年度集中的に強化を図ってきた田場・中川・野村・茅場・佐々木に加え、これも現在スペイン留学中の宮崎・小倉も呼んだ。2名についても内田同様、所属チーム監督と連絡を取り、現在の状況を確認した（スペイン留学中の加藤・柳本についてもスペインでの強化チェックも兼ね合流させた）。

4. 試合結果

対戦成績

1月4日
JAPAN 25 (13－12 / 12－11) 23 Montpellier

1月4日
JAPAN 27 (14－11 / 13－10) 21 Angers

1月5日
JAPAN 26 (14－15 / 12－13) 28 PSG

1月6日
JAPAN 30 (15－5 / 15－10) 15 Dunkerque

1月8日
JAPAN 23 (8－8 / 15－8) 16 Toulouse

1月9日
JAPAN 26 (12－8 / 14－12) 20 Poland National

5. 成果

※ディフェンス

対PSG戦は大型ポストとセンターのコンビネーションにより、得点を許すケースが有り、ディフェンスで積極性を失った以外はコンスタントに高いレベルで維持できた。ディフェンス専門の羽賀の加入により、ディフェンスでの集中力が増し、真ん中の2ポジションを山口・池辺・羽賀の3名でまわすことが出来るようになり、スタミナのロスも減少し、オフェンスでのエネルギーを生み出すこととなった。

バリエーションを増やすということでトライした3－2－1ＤＦシフトを実践することで当システムでは当然ながら、6－0ＤＦにおいても動きのあるディフェンスが出来た。

※オフェンス

対戦相手に恵まれ、今回対戦した全てのチームが3－2－1ＤＦないし、それ以上に前方に出てくるＤＦを行ってきた為、我々のトレーニングとしては最適であった。

遠征中、野村・中川の中心的な選手が故障し、試合に出場することが出来なかったが、田場の強烈なリーダーシップ・宮崎のスピードプレー・山口と池辺のWポスト攻撃といったような今迄にないバリエーションで成果を上げることが出来た。

今遠征で、6試合を経験し、最大30点・最小・23点・平均で26.17点をあげることが出来、コンスタントなオフェンス能力を発揮できるようになった。

ヨーロッパのナショナルチームとの対戦に勝つことが出来、選手各自の自信に繋がった。

平成14年度事業計画

平成14年4月1日　(財)日本ハンドボール協会

今、スポーツ界を取り巻く環境は経済的にも、社会的にも暴風圏の中にあります。

もちろん、ハンドボール界も同様であり、各企業が相次いで企業スポーツから身を引くという状況、さらに少子高齢化に伴う競技人口の減少など、まさにスポーツ冬季の時代になりつつあります。そんな中、この視界不良の時こそ、真価が厳しく問われることを肝に銘じた上で日本協会として、ハンドボール競技の強化・普及を両輪として永続的に発展させていかなければなりません。そのためにも現在、鋭意推進中の中長期計画・短期計画の達成こそ今後の大きな課題として認識し、その実現に向けて各事業部とも、事業予算の効率的運用と事業内容の精度向上を図るべく、各種事業を展開していきます。

さらに、協会運営の原点ともいえる健全な財政運営のため、各地域の協会と密接な連携を取りながら、将来に亘り安定した財源の確保のため、スポーツ界の環境変化による構造改革に対応できる日本ハンドボール協会の構造改革についても積極的に取り組んで参ります。

1. 普及・指導に関する事業

普及特別委員会

1. 公認指導者体系の整備
2. 普及施策の検討
   - 運営マニュアル
   - 異種目スポーツとの連携事業
   - 中学生層の普及

《普及関係》

【基本方針】

1. 生涯ハンドボール体系の確立
   ①小学生を中心としたジュニアチームの育成
   - 市町村協会でのスポーツ教室、スポーツクラブの育成
   - チーム創設マニュアルの作成
   - 郡市町村ハンドボール協会の設立促進

   ②小学校における教科体育ハンドボール授業の実践促進
   ③小・中・高の教科体育における一貫指導体制の確立
   ④マスターズハンドボールの普及
   ⑤車椅子ハンドボール等の支援
2. 中学生委員会関係
   ①チーム登録の徹底
   ②指導者養成、チーム育成事業の充実
3. ビーチハンドボールの普及
   全国大会の開催

【重点施策】

1. 小学校教科ハンドボールの普及と次期指導要領改訂対策
   - 実践研究発表会の充実
   - 研究指定校制度の検討
   - 発育発達に応じた指導マニュアルの作成
2. 小学生チームの運営研究
   - 小学生委員会を中心としてスポーツ教室、クラブチーム経営運営マニュアル作成、広報
3. 中学生チームの普及と活性化
   - 指導者の育成
   - 中学校体育連盟との連携
   - NTSとの連携
4. 生涯ハンドボール体系への基盤整備
   - 少年スポーツ教室・クラブの充実
5. ビーチハンドボールの普及
   - 講習会の開催、審判員の養成

《指導関係》

【基本方針】

1. 指導者の育成
   ①指導組織の整備
   ②公認コーチ養成講習の実施
   ③都道府県における公認J級指導員及びスポーツ指導員の養成
   ④コーチレフェリーシンポジュームの開催
   ⑤大学におけるC級コーチ専門教科認定コースの設置について
2. 公認指導者の義務付けについて
3. 海外派遣による研修と情報収集
4. 技術・指導情報の広報
5. NTSとの連携

【重点施策】

1. 公認J級指導員養成、スポーツ指導員養成講習会の実施
2. B級公認コーチ養成講習会の開催
3. 公認指導者組織の整備
4. NTSとの連携による指導者養成体系の確立

2. 競技運営に関する事業

【基本方針】

1. 日本協会主催、共催大会及び国際大会の管理運営にあたる
2. 大会運営、競技運営の組織化を推進する
3. 競技用具検定制度の推進及び整備をはかる
4. 国民体育大会の夏季大会移行の推進をはかる
5. 社会人連盟構想（仮称）の推進をはかる

【重点施策】

1. 大会運営、競技運営の組織化をはか

るためにも競技役員の資質向上を目指し養成をはかると共に、運営の普遍化を推進する

2. 選手・チーム役員及び日本協会のデータ管理を統一させ、登録制度の推進をはかる

3. 競技用具の検定制度の推進及び整備をはかる

4. 全日本総合選手権、国民体育大会・リハーサル大会・マスターズ大会の再構築を検討する

5. 社会人連盟構想及び各種大会の再編成を意図した大会制度の構築を検討する

3. 国際に関する事業

【基本方針】

1. 世界大会（オリンピック、WC）出場に向け環境作り
2. アジアハンドボール連盟（AHF）のさらなる正常化
3. 国際交流の体制構築とネットワーク化

【重点施策】

1. AHF・IHFの重要ポイントに役員を送りこむ

　委員会も含め登録し、日本主導で進める

2. 東アジア地区の連携を密にする
   - 東アジア諸国の交流会議の実施　4月　神戸市
   - イベント時の交流会の実施　随時
3. 海外拠点と国際交流のバックアップ
   - 派遣選手の送り出しのアシスト
   - 海外拠点国との調整
   - 海外駐在ハンドボール経験者の活用（情報収集）
   - 海外招聘国への調整

4. 競技規則（審判）に関する事業

【基本方針】

1. 審判員の資質の向上

　日本の技術向上には、審判員の資質向上は不可欠であり、トップレフェリーを含め全体のレベルアップを図る。

　さらに、コーチ・プレーヤーとコミュニケーションを図ることにより、技術と反則の問題点を探り、高度の技術を目指す。

2. 新競技規則の徹底

　新競技規則を4月1日より実施するが、競技運営上の問題点について、国際連盟等との連携を密にし、改正の精神及び解釈について、競技規則研究委員会を中心に徹底を図るルート作り。

3. 審判員の評価

　研修会・講習会の成果また課題の把握、評価（審判技術）の継続

【重点施策】

1. 視聴覚教材の充実

　VTR等による視聴覚を駆使し、教育用VTR及びテストVTRを作成し、審判員の資質向上の一助とする。

　当然、視聴覚器材の充実と、作成スタッフの充実を図らなければならない。また試合終了後、当該審判員と監督と意見交換の場を持つことの徹底を図る。

2. トップレフェリー研修会の実施

　全国大会審判員、日本リーグ審判員及び技術指導者を一同に集めた研修会の実施。ここで審判・技術両面の意見の交換を行う。

3. 継続的行事の実施

　公認A・B級審査、審判評価、JHAレフェリーコース、審判合同委員会等は、審判部運営上避けられない。

5. 競技力向上（強化）に関する事業

【基本方針】

1. アテネ強化施策の推進
2. 中・長期強化施策の推進
3. プサン・アジア大会の強化推進
4. メディカルサポートの実施（アンチドーピング推進）
5. 分析班の充実

【重点施策】

1. アテネ強化の実施
   - 強化合宿の実施（女子長期合宿の実施）
   - 海外遠征の実施と国際試合の増加を図り、チームを強化
   - 海外拠点の充実を図り留学生の強化、競技力の向上
2. 中・長期強化の実施
   - 学生世界選手権のメダル獲得
   - 北京を目指してU－23、U－19、U－16メンバーの強化、外人コーチを招聘し地方分散合宿と集中合宿を行い強化推進
   - ジュニアチーム（男女）世界選手権のアジア代表権獲得
3. プサン・アジア大会金メダルを目標とし目標達成の強化施策の実施
4. メディカルサポートの充実と代表チームのトップコンディションアップを図る。

　国内大会のドーピング実施

5. 分析・情報収集を充実させ、アジア各国のチーム力を把握し、代表チーム戦力アップを図る。

　代表チームと帯同、分析、技術の開発。

6. 機関誌発行に関する事業

【基本方針】

　平成14年度は、13年度に引き続き事業を充実させていく。量的には32ページを確保できる体制が整ったので、質的充実を図っていく。

　内容的には、重点施策に沿い、人的確保をしながら各種記事の内容充実を図る。また新企画も検討をしていく。

　協会運営の基盤となる規程集を整備作成することを目途に検討、小委員会を設置し、規程の見直し含め検討していく。

【重点施策】

1. 各種全日本大会、国際大会詳報
2. ナショナルチーム情報
3. NTS関連情報
4. 『10万人会』サポート会員情報
5. 協会便り
6. 各種事業報告
7. 人物登場
8. 新連載企画
9. IHFニュースなど

　規程の見直しと規程集の作成

7. 企画・広報に関する事業

《企画》

【基本方針】

1. 中・長期スケジュールに基づく企画・立案
2. 協賛募集活動の定着と拡大
3. 『構造改革・プロジェクト21』の検討・推進

【重点施策】

1. アテネ特別強化委員会のプランに対する活動（アテネオリンピック・アジア予選開催等）
2. マーケティング委員会の設置と活動（協賛募集活動の具体化）
3. 『構造改革・プロジェクト21』の具体的検討と実施

《広報》

【基本方針】

1. ハンドボール情報の発信の拡大（プレスリリース等の拡大）
2. メディアとの交流拡大
3. 協会内体制の確立
4. ナショナルチームのPR
5. インターネットの充実拡大
6. 『がんばれハンドボール10万人会』の徹底

【重点施策】

1－1 発信媒体の拡大に伴う対応
　イ）新聞
　ロ）テレビ
　　（地上波・BS・他チャンネル）
　ハ）雑誌
　ニ）HP

1－2 発信内容への対応
　イ）ニュース　　ロ）文化
　ハ）バラエティ　ニ）経済

2. メディアとの定期懇談会の実施
　イ）東京記者クラブハンドボール分科会との懇談
　ロ）NHKとの懇談
　ハ）意見交換の実施
3. 協会内組織の確立（担当者の複数化）
4. ナショナルチームの露出
　イ）テレビ　ロ）HP
　ハ）新聞　　ニ）雑誌
5. HP情報の内容を充実（機関誌委員会、スポーツイベント社との連携）（ナショナル情報）
6. アテネ事務局と連携し、ナショナルチームの情報発信

8. 財務・会計に関する事業

【基本方針】

日本ハンドボール協会の財政は、近年の効率的な運営努力と組織拡大効果により健全運営がはかられてきた。しかし、ここにきて日本経済の長引く低迷の影響から日本リーグ加盟チームの活動停止や撤退、さらに少子化傾向による登録学校の減少等、協会の健全運営のための収入財源の確保については厳しい状況になっている。

今年度の運営に当たっては、従来同様健全な財政運営に努めると共に、何に効率化を求めるか早急に検討していく。

【重点施策】

1. 安定的財源確保のため登録金の抜本的改定の検討
2. マーケティング委員会の活動によるスポンサーの整理と新規獲得
3. 一般会計と特別会計の会計処理の明確化

9. 日本リーグに関する事業

【基本方針】

1. 日本リーグを継続・発展する
　①日本リーグ機構中期ビジョンを確立する
　②地域と共に発展する日本リーグを目指す
　③企業におけるチームの位置付けを明確にする
　④アテネ特別委員会との連携、支援体制を確立する
　⑤普及活動への連携・支援体制を確立する

【重点施策】

1. 日本リーグ機構中期ビジョンの検討を行う
2. 女子リーグの今後のあり方と推進
3. 観客動員対策に取組む
4. メディア対策に取組む
（記者クラブ・NHK・TVKテレビ・BS放送多チャンネル・チーム広報を徹底）
5. 東京地区での試合開催
6. 第3地域での試合開催
7. 経費節減に取組む
（集中開催　リーグの短期化）
8. NTS活動への協力支援・積極参加
9. 新しいリーグの姿への挑戦
　Ⅰ）スーパーリーグ構想
　Ⅱ）3回戦総当り
　Ⅲ）東アジアリーグ
10. 審判技術の向上に取組む

10. 総務に関する事業

【基本方針】

日本協会の事務局として、本来の業務であるハンドボール競技者・関係者へのサービス機能と管理機能を強化するため事務局の効率的運営を推進し、人材の効果的投資を検討する。さらに、諸会議の円滑な運営による迅速な情報の提供をはかり、情報の伝達が末端までスムーズに行くよう、ネットワークの再構築をはかる。

【重点施策】

1. 事務局の強化体制の推進
2. 諸会議の効率的運営
3. 各種情報伝達機能の見直し

11. 『がんばれハンドボール10万人会』サポート会員に関する事業

【基本方針】

全員参加の理念によるハンドボールの発展を図るため、一般ハンドボール愛好者の入会を進め、その管理体制とサービス事業を行う。

【重点施策】

1. サポート会員の名簿管理体制の確立
2. サービス事業の展開
3. 入会促進事業の展開

2002年度　国内・国際大会日程(予定)　◇印 国際大会

	大　会　名	開催日程	開催地	開催場所
4月◇	アジアナショナルサーキット	4/24日(水)～28日(日)	兵庫県・奈良県 他	グリーンアリーナ神戸・和田山勤労者体育センター・生駒市市民体育館・田辺中央体育館 他
5月				
6月◇	第5回 世界大学女子選手権	6/25日(火)～7/2日(火)	スペイン	ヴァレンシア
7月	第22回 全国クラブ選手権大会・西	7/12日(金)～14日(日)	山口県	徳山市総合スポーツセンター
	第22回 全国クラブ選手権大会・東	7/26日(金)～28日(日)	福島県	本宮町総合体育館・本宮高校体育館・本宮体育館
	第10回 マスターズ大会	7/26日(金)～28日(日)	愛知県	豊田市体育館・中京大体育館
◇	ジャパンカップ	7/1日(月)～10日(水)	熊本県・兵庫県 他	熊本県立総合体育館・グリーンアリーナ神戸・岐阜アリーナ 他
◇	第7回 女子ジュニアアジア選手権/WC2003(ブラジル)予選	7/1日(月)～15日(月)	(未定)	
◇	第8回 ヒロシマ国際大会	7/25日(木)～28日(日)	広島県	広島市
◇	第9回 アジア女子選手権/WC2003(オランダ)予選	7/25日(木)～8/5日(月)	中国	
8月	高松宮杯 第53回全国高校選手権大会	8/1日(木)～7日(水)	茨城県	水海道市民体育館・岩井市総合体育館・常総運動公園体育館 他
	第15回 全国小学生大会	8/2日(金)～4日(日)	京都府京田辺市	田辺市中央体育館・同志社大学体育館 他
	第4回 全日本ビーチハンドボール選手権大会	(未定)	(未定)	
	第7回 ジャパンオープントーナメント	8/8日(木)～10日(土)女子 11日(日)男子	静岡県	男子・静岡市中央体育館・北部体育館・市立高校体育館 他
	西日本学生選手権大会	8/9日(金)～13日(火)	広島県	東区スポーツセンター・広島県総合体育館
	第29回 全国高等専門学校選手権大会	8/10日(土)～11日(日)	岩手県	花巻市総合体育館
	東日本学生選手権大会	8/16日(金)～20日(火)	岩手県	花巻市総合体育館・富士大学スポーツセンター
	第6回 日韓スポーツ交流(派遣)	8月前半	(未定)	
	第6回 日韓スポーツ交流(受入れ)	8月後半	(未定)	
	NTS(ナショナルトレーニングシステム)ブロックトレーニング	7月～8月	各ブロック	
	第10回 東日本小学生大会	8/17日(土)～19日(月)	山形県	東根市民体育館
	第31回 全国中学校大会	8/22日(木)～25日(日)	和歌山県	県立橋本体育館
	第10回 日韓中ジュニア交流競技大会	8/25日(日)～27日(火)	熊本県	熊本県立総合体育館
◇	第8回 男子ジュニアアジア選手権/WC2003(アルジェリア)予選	8/25日(日)～9/10日(火)	(未定)	
9月	高松宮杯 第43回全日本実業団選手権大会	9/11日(水)～15日(日)	福井県	北陸電力体育館(9/11～12)・県営体育館(9/13～15)
◇	第14回 アジア競技大会	9/30日(月)～10/13日(日)	韓国	ブサン
10月	第27回 日本リーグ	10/19日(土)～03年3/16日(日)	各地	沖縄県浦添市 他
	第57回 国民体育大会	10/26日(土)～31日(木)	高知県	県立高知南高校体育館 他
11月	高松宮杯 男子45回・女子38回 全日本学生選手権大会	11/13日(水)～17日(日)	大阪府	中央体育館・大阪府立体育館
12月	第54回 全日本総合選手権大会・男子・女子	12/11日(水)～14日(土)	愛知県	枇杷島スポーツセンター・中村スポーツセンター・千種スポーツセンター 他
	第11回 JOCジュニアオリンピックカップ	12/25日(水)～27日(金)	大阪府	堺市家原大池体育館
◇	世界大学男子選手権	12/27日(金)～03年1/4日(土)	ブラジル	ブラジリア
	NTS(ナショナルトレーニングシステム)センタートレーニング	12月～03年1月	(未定)	
1月◇	第18回 男子世界選手権	03年1/18日(土)～2/3日(月)	ポルトガル	
2月	全日本実業団チャレンジ2003	A:2/8日(土)～9日(日) B:2/15日(土)～16日(日)	三重県・福井県	ホンダアクティブランド体育館・北陸電力カフレア体育館
	第9回 西日本小学生ハンドボール交流大会	2/22日(土)～23日(日)	岡山県	
3月	第27回 日本リーグプレイオフ	3/21日(金)～23日(日)	東京都	駒沢体育館
	第26回 全国高校選抜大会	3/23日(日)～28日(金)	富山県	氷見市ふれあいスポーツセンター 他

西窪ジャパンに期待

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー Free Throw

日本女子代表監督の伊藤宏幸氏が退任、後任に西窪勝広氏が就任することになった。日本協会によると、伊藤監督の所属する日立栃木が今シーズン限りで活動を休止することから続投が困難になったという。代表監督の交代劇では珍しいケースではあるが、現実の厳しさを突きつけられたといえるだろう。

2004年のアテネ・オリンピック出場を目指して意欲を見せていただけに、本人の胸の内ははちきれないほど苦しいものがあったことだろう。

さて西窪新監督はオムロンの監督として多くの大会を制し、日本ジュニアコーチなどを経験、一昨年からは日本協会女子強化部長、アテネ・オリンピック特別強化委員を努めるなど日本女子の強化に献身的に携わってきた。世界選手権予選を兼ねた７月のアジア選手権（中国）が船出となるが、豊富な経験を生かして、女子のレベルアップに力を注いでもらいたいものである。

その中で注目されるのが「一極集中チームでの強化」方針である。ということは、当然ながらオムロンを軸とした強化である。世界のながれからすれば、逆行している。しかしながら、日本の現状を考えると、それがベストではないだろうか。オムロン勢を主体に他のチームからの補強という形になるだろう。

アジア選手権に続いて９月には韓国・釜山でアジア大会、そして来年９月には神戸でアテネ・オリンピックのアジア予選が控えている。こうした状況をみた場合、出来るだけ早い時期にメンバーを決めての強化が大切である。そうした中では「一極集中強化」が最良の手段であろう。

とにかく当面の最大目標である五輪予選までには時間はない。出来るだけ早くチームを立ち上げることが求められるのは明らかだ。年内の２大会でまずは結果を出すことが大切だ。その勢いを駆ってアテネ・オリンピック予選へさらに拍車をかけることである。これまでもいろいろと代表メンバー選考に当たっては言われてきたが、新体制となる今回はしっかりした方針を持って、頂点強化に踏み切るべきではないかと思う。とにかく、今は女子のレベルアップ、世界に近づくために最良の手段を選択するしかあるまい。単独に近い日本代表チームを率いる西窪新監督の手腕に大きな期待を寄せたいし、注目して今後の強化ぶりを見つめたい。

NTSセンタートレーニング実施パートⅡについて

(財)日本ハンドボール協会
NTS運営委員会　委員長　蒲　生　晴　明

NTS（ナショナルトレーニングシステム）がスタートし2年目のセンタートレーニングとなりました。今回は、U－19・U－16のスタッフが選考した全国の優秀選手とNTS各9ブロックから選考していただいた有望選手を一同に集めて、トレーニングを実施しました。将来的に日本の独自性を創りあげるため、戦術的にナショナル活動との関連性を持たせること、また、この機会を通じ、ナショナルチームへ人材を幅広く発掘登用していくことを目的として、U－19・U－16の選考会と合同で行いました。

また、このシステムは、指導者の方々に、ナショナルチームが世界・アジアで戦うために必要な戦術・技術・フィットネス・新しい情報などを提供することも目的の一つとしております。普段、目前の大会やトーナメントに対して、日々のトレーニングに努力されていることと思われますが、センタートレーニングに参加していただき、日本が世界を相手にした際の問題点・課題などを共に考え、自分を磨き、見直す、絶好のチャンスであります。今回は、前回より多くの指導者の方々が参加され、それぞれの立場で、指導方法などについて参考・刺激になったとの感想をいただきました。アンケートの結果、指導者からの意見は、「継続させて欲しい」「拡大させて欲しい」「スタッフとのミーティングがよかった」「もっと時間をかけてほしい」「世界との違いを示して欲しい」など、とても積極的で建設的な要望や意見が寄せられました。

また、選手たちには、将来のナショナルチームのプレーヤーになることを目指せるように「大きな夢」を持ってもらえるようなシステムにしていくことが必要です。今回選手たちは、世界選手権のVTRなどを見て、大いに刺激を受け、またプレーに対する考え方が変わったようです。アンケートの結果、選手側の感想では、「参加できてよかった」「コミュニケーションの重要性が分かった」「自分よりうまい人がたくさんいた」「一つ一つが勉強になった」等、NTSの機会をとても有意義に受け止めていることが推測できます。

今回はU－16（中学生対象）のセンタートレーニングの内容について、掲載をいたします。このトレーニングメニューは、NTS2001教科指導教本に沿ってナショナルチームが世界と対戦する上での課題を盛り込んだものです。今後は、教本・VTR製作を実施してまいりますので、今回は、メニューだけとさせていただきます。

U－16・NTSセンタートレーニングメニュー

テーマ・トレーニングの狙い

1．テーマ
- ・コーディネーション能力向上
- ・グループ戦術における判断とリーダーシップ習得
- ・常にゴールを狙う中での戦術習得

2．トレーニングの狙い
- ・常に前を狙う。
- ・とっさの判断力、ボールコントロール等個人戦術の養成
- ・グループ戦術の中でのリーダーシップ（判断をして人を動かす）

トレーニング内容

⑴ウォーミングアップ
①様々な鬼ごっこ・パスゲーム
目的&狙い：相手とのスペース（間合い）の取り方の習得
多彩な動き・とっさの判断力養成・緩急の取り方の習得

⑵コーディネーション
ワンマン自由自在
片手キャッチ（ボール1～2）
ドリブル&キックドリブル
2ボール→3ボールパス
2人：トス&パス・キック&パス
3対2のパスゲーム
目的&狙い：リズム、タイミング、反応、変換等の能力養成

⑶パストレーニング
①アシストパス
目的&狙い：ポスト・サイド・ノーマークへのアシストパスの養成
②2対2＋フリーマンパス
目的&狙い：パスの判断、タイミングを習得する

⑷シュートトレーニング&ゴールキーパートレーニング（セーブ）
①シュートの打ち分け方
目的&狙い：相手とのスペースの取り方・間合い、
スイングのポイント・ステップの使い方、足の出し方の習得
②ポジション毎のシュート
目的&狙い：ポジション毎（ポスト・サイド）に必要な基本的なシュートの習得

⑸1対1～3対3までのグループ戦術トレーニング
①5種類のフェイント習得&それに対するディフェンス
目的&狙い：1対1の突破能力の養成
5種類の基本的なフェイントの習得
②様々な2対1・2対2
目的&狙い：グループ戦術における判断とリーダーシップ習得
③様々な3対3
目的&狙い：瞬時のポジショニングとリーダーシップ習得
5種類の基本的なフェイントを使い、広い1対1を狙う

⑹ゴールキーパートレーニング
①正しいポジショニング（シュートトレーニング中に実施）
目的&狙い：相手のプレーに対して、素早く正しいポジショニングをとる
②体全体でのダイナミックなキーピング（シュートトレーニング中に実施）
目的&狙い：ボールを怖がらずに、大きい面でミート
③確実なパスアウト（速攻のスタート時のトレーニング）
目的&狙い：速攻の第一ステップとして正確なパスアウト

中学校活動シリーズ

浦添市立仲西中学校（沖縄県）

① 学校名、指導者名、所在地

沖縄県浦添市立仲西中学校
女子ハンドボール部顧問　喜名　匠
沖縄県浦添市屋富祖２－13－１

② 部員数

３年生18名・２年生15名・１年生６名　計39名

③ 部創立時期・部活動継続の苦労話

平成13年４月より、体育教諭として仲西中学校に臨時的に決まりましたので、私がこの仲西中学校女子ハンドボール顧問としてハンドボールに係ったのが、平成13年４月からになります。よって、部設立時期と部活動継続の苦労については、何も書くことはできません。ただこの部活動(女子ハンドボール）を引き受けたときに驚いたことは、選手たちの目標に向かっての意識は高く、今までの伝統をしっかり引き継ぎ活動していることでした。

④ 指導に当たって特に留意されている事項

私は、ハンドボールの選手であったわけでもなければ、ハンドボール顧問として指導者として経験していたわけでもありません。仲西中女子ハンドボール顧問としてハンドボールチームの指導者としてゼロからのスタートでした。そんな私でしたので、ハンドボールに関しては、子供たちのほうがよくハンドボールを知っていました。そこで私が指導に当たって特に留意したことは、メンタル面など、技術以外のことでした。

このチームは確かに強く、周りの声からは「今年の仲西は全国優勝をねらえる」と注目されるほどでした。もちろん、選手たちの夢も「全国優勝」をチームの目標として共有していました。しかし、その強さがおごりを作り、一番大切な仲間を思いやることが欠けているようでした。そのため、チームワークはばらばらで、３年生だというのに「退部したい」と相談さえ受けるほどでした。そこで私が、新しい顧問としてこの子たちに与えたテーマが、「ナンバー１より、オンリー１」でした。「一番を取ることより、一番を目指すために、一番大切なことがある。仲間を信頼し、思いやること。それが欠けていてナンバー１はありえない。優勝という二文字は、優しさが勝ると書く。どんなに厳しい練習をしてもその中に必ず優しさがある。そして、その優しさがどのチームよりも勝れるから、優勝なんだ。」このテーマを理解させ、目標に向かって努力していくことを心がけました。

⑤ 部員数確保への具体的取り組み事項など

この浦添市の町というのが、サッカーで言えばサッカー王国静岡県、バスケットボールで言えばバスケットボールの町、秋田県能代市の能代工業というように、浦添市ハンドボールと言えばどの小学校も盛んで、まさに地域のハンドボールとして生きている。浦添を制する者は全国を制すとまで言われるぐらいハイレベルな戦いをしています。現に、今年小学校で全国優勝を成し遂げた神森小学校、中学校ではこの仲西中学校、高等学校では陽明高校と、いずれも今年の小中高等学校の全国チャンピオンがすべて浦添市の学校から成されました。まさにハンドボールの町浦添として地域の一部となっています。このような地域だからこそ、自然に子供たち自ら興味を持ち取り組み、大人まで楽しんでいくといった流れが出ています。そのため、部員数確保への心配がなく、自然に集まった部員で目標に向かって取り組むというのは、この浦添市のハンドボールです。

⑥ 地域社会・近隣小・中・高等学校との連携やかかわり方について

先程書いた通り、小学校の頃から全国制覇を成し遂げる子供たちの意識は高く、中学校でも全国優勝したい。高校でも全国優勝がしたいという思いを常に失わず、自然に上へとその思いがつながれています。

⑦ 練習メニューについて

小学校である程度基礎基本が作られてきますが、走り込みとパスからシュートにかけては疎かにせず取り組み、あとは攻防（ゲーム形式）など実戦に近い練習を多く取り入れ、その中からゲーム感覚を養うようにしています。

もう一つ練習以上に大切にしていることは、ウォームアップはもちろんのこと、練習後のストレッチやアイシングなどに時間をかけてしっかり取り組んでいることです。そのため、平成13年の地区大会から全国大会までの中で負傷者ゼロというベストなコンディションで望むことができました。

⑧ 小・中学生など若年層の競技人口拡大に向けての諸方策
⑨ ハンドボール文化を日本の中で定着させるにはどのような取り組みが必要か

この浦添市のハンドボールを例にあげてみますと、小学校からの取り組みがどの地域よりも盛んに行われており、沖縄県全体で見てみますと、小学校でハンドボール部を活動させているのがこの浦添市だけに定着しており、その他の地域は、小学校に指導者がいないため中学校からハンドボールを始めるなど、ハンドボールが盛んに見える沖縄も、実は浦添市だけにとどまっているのが現状です。

では、どうして今のような浦添市がハンドボールの町として成り立っているのか。私が浦添市を見て感じたことは、小学校のハンドボール指導者が地域を巻き込んで育てていることです。そのため、その指導者が赴任しても、その地域の父母が子供たちを育て引き継がれています。この例から言えることは、地域を巻き込んで小学校の組織からしっかり作ることではないでしょうか。そこから地域、父母に興味を持たせることができれば、あとは自然に地域が子供たちを育てていくことになります。そうなればこの浦添市ハンドボールのように、どの町でもハンドボールが定着していくのではないでしょうか。

私も、学生時代水球という競技に取り組んできました。「水球って何？」とよく聞かれるぐらいマイナーなスポーツで、沖縄県では国体強化のために作られたチームだけでした。そのため国体が終わった後は部員数も減り、一時は沖縄県から水球競技がなくなりかけました。その時、国体の時のＯＢが集まり、もう一度全国に通用する水球チームを復活させようということで、小学生を対象に募集を呼びかけ、ボランティアで水泳教室を開き、父母・地域を巻き込んで、今ではその小学生だった子供たちが中・高等学校と水球を続け、沖縄国体の時以上に、盛り上がりを見せています。

小学生からの強化、父母を巻き込んで地域に定着させるなどいろいろなことをあげてみましたが、何よりも一番大切なことは、指導者たちの“情熱”だと思います。仲西中女子ハンドボール部も、前顧問（神谷加代子）の“情熱”の指導で、このような伝統あるすばらしいチームが築かれました。それを引き継いだ私も、ハンドボール専門ではないのですが、指導者としての“情熱”は誰にも負けません。先程の水球の話しもそうです。「沖縄に水球チームを作ろう」。その情熱の思いが、目的を可能にしました。

“情熱”こそが人生やゲームに勝利していく上で一番大切なものです。けれど“情熱”は自然に生まれてくるものではないので、一つの能力として作り出さなければなりません。私も“情熱”を持つための努力と工夫を常に意識し考えて指導をしています。“情熱”があればきっと子供たちにも父母にも地域にも伝えられることだと信じています。

・人・物・登・場・～そのとき活躍した人々～

人物登場。今回ご登場いただくのは。

片瀬 喜代次さん
（かたせ　きよじ）
大正15年2月24日生

静岡県清水市出身、昭和20年9月日本体育専門学校（現日体大）卒業。清水市立商業高校勤務、全国高校総体男子優勝1回、準優勝2回、第3位3回、女子3位2回、国体優勝1回、女子準優勝1回、3位2回等男女を全国レベルで活躍させ、オリンピック選手等の優秀選手を多数育てた。昭和39年2月チェコスロバキアで開催された、第5回男子ハンドボール世界選手権大会に日本選手団のマネージャーとして参加。昭和44年11月全日本教職員ハンドボール連盟設立準備委員会を清水市で開催し初代理事長となる。また審判審査委員として長年活躍。清水商高定年退職後、静岡大学教養学部非常勤講師として6年間勤務。平成10年秋勲五等瑞宝章受章。

ハンドボールとの出会いについて教えて下さい。

昭和16年3月旧制清水中学（現清水東高）に日体専の送球部が合宿練習に来ました。当時11人制で力強い投技と華麗な跳躍に、すっかり魅せられた私は、日体専に進学して送球をやろうと心に誓いました。昭和18年4月日体専に入学しました。当時送球部の先輩には、3年生荒川清美・2年生村田弘・神田清・小袋などおりました。

当時のハンドボールはどのようなものでしたか。

日体専入学当時、戦争が激しくなって、全ての競技が軍事訓練化となる時、送球だけは日独伊の三国同盟の名において大学対抗戦等が続けられました。特に独軍の潜水艦が横須賀港に入港した際に、当時の横浜のＹＭＣＡのグランドで艦隊員と我が日体専の部員と送球の親善試合をやりました。試合の内容よりも、終了後食べた西洋料理とビールの美味しかったことは、当時の食料事情が悪くなり始めた頃でよく覚えております。

ハンドボールを通じて思い出に残っていることは何ですか。

昭和23年4月清水商高に着任しました。当時野球部だけが盛んでその他の運動部は余り活発ではありませんでした。そこへ送球部を新設するには、新米教師の私には大変な抵抗がありましたが、募集した部員は15名でした。11人制のグランド造りから始めてゴールポストは材木を購入してきて手造りでした。その年の8月国体県予選会に16校参加があり、初参加の我が校が、いきなり準決勝戦まで勝ち進みました。これには余り運動部の盛んでなかった学校側も生徒間でも大騒ぎとなりました。練習も一層熱心になり、夕方遅くまでやるようになりました。

翌年の県大会には決勝戦までの目標が、またもや準決勝戦でした。3年目に入り同じことの繰り返しと反省した私は、日体大の現役をコーチに呼んで合宿練習を計画しました。5人の日体大学生が来ました。8日間の合宿は「正にこの世の地獄」でした。生徒達ともに真っ赤な小便をしながら頑張りました。そして臨んだ県大会は、他校を全く寄せ付けず勝ち進み、またもや準決勝戦に、その年急成長した富士高に2点差で負けてしまいました。終わりの挨拶をした選手達が私の所に走って来るなり、私の身体にかぶりついて「オーイ、オーイ」と大声をあげて泣きました。私は泣けませんでした。どうして負けたのか、技術か体力か気力か伝統か、その晩は一睡もしませんでした。翌日早く登校した私はモゾー紙に「練習で泣いて試合で笑え」「雨の日も風の日も練習、練習」「暑くても寒くても練習、練習」と書いて部室に貼りました。

翌年、第2回全日本高校ハンドボール大会県予選に、他校を全く寄せ付けず堂々と優勝し、東京駒沢の全国大会に出場して、いきなり準優勝しました。そして、昭和26年より昭和50年まで25年間、静岡県の高校総体県予選で他校に優勝は譲りませんでした。

もう一つ私にとって忘れられない思い出があります。第5回男子ハンドボール世界選手権大会がチェコスロバキアで開催されたその前後に、日本選手団は外国人との試合に慣れるために、フランスの各地で親善試合を行いました。

3月17日パリ郊外のサンモールでステラチームと戦った時、ＧＫ尾形譲（当時立教大1年生）が相手選手のサイドからのシュートボールが顔面に当たり、右眼を負傷して救急車で入院しました。内出血がひどく精密検査ができなくて絶対安静とのことで私はマネージャーとして付き添っていました。そして、日本選手団は次の訪問国イスラエルへ旅立っていきました。尾形君の右眼は想像よりも重傷で、ベッドの上で身体はもちろん顔も動かしてはいけない、部屋の中に光線を入れてもいけないため、暗い中で話しもしないでいました。パリの中心のホテルから、地下鉄とバスを乗り継いで病院まで通って看病したのですが、パリの地下鉄は駅名は書いてありますが、次の駅名は書いてありません。地下鉄ですから車外の景色や目標物が見えません。しかも、途中で乗り換え駅が大変入り組んでいて難しく、少し間違えると乗り換えたつもりが先程のホームに来てしまったり、言葉が通じないので大変苦労しました。とにかく、負傷した尾形君を無事日本まで届けるために、25日間の異国での幾多の困難を乗り越えて日本に帰ることができました。当時38歳の私が貴重な体験を通して、人間的に大きく飛躍したと確信している次第です。

今の日本ハンドボール界にご提言をお願いしたいのですが。

昭和40年代に、ヨーロッパ各国が日本へ遠征に来て、各都市で親善試合を開催しました。日本の各都道府県協会は実業団・クラブチームと対戦させた。そして、その経費を得るために、観衆を多数集めた。そのことがハンドボールの普及となり選手の競技力向上にも役立った次第です。

隣の韓国でも、Ｊリーグの合間に是非世界のクラブチームを招待して下さい。

片瀬さんありがとうございました。次号もお楽しみに。

見るだけでも楽しい！
こだわりショッピングサイト

http://www.toki-meki.com/

こだわって選んだ商品だけを紹介するインターネット・ショッピングサイト。
コンビニの「サークルK」や「サンクス」が母体の会社ですから安心です。
ファッション、スポーツ、ビューティ、デザイン家電、インテリアetc.
暮らしや“心”を応援する、多彩なジャンルを網羅するさまざまな
グッズやサービスをご提供しています。
そこには、あなた自身のこだわりに共鳴する1点がきっとあるはず。

シーアンドエスグループは、日本ハンドボールチームを応援しています。

サークルケイ・ジャパン株式会社、株式会社サンクスアンドアソシエイツ、
ときめきドットコム株式会社はシーアンドエスグループです。

シーアンドエスグループ

競技者Webシステムの2002年度導入について（予定）

競技運営部

2002年度予算による新ＰＣ登録システムの概要が明らかになりました。

新ＰＣ登録システムの特徴

このシステムは、旧システムにおいて時間的・費用的に最もネックとなっていた「ＰＣ入力作業」を各チームに直接データベースに行って戴くことにより、入力作業代の費用削減、データの迅速処理が行えることです。更に、データベースを日本協会だけでなく各都道府県協会および関係部署でも広く利用することが出来ます（アクセス権を設定することでセキュリティを確実にする)。しかし、登録の仕方が大きく変わるのではなく、入力方法（登録用紙への記入方法）の選択肢が１つ増えただけであり、登録の流れは今までのままで行います。コンピュータ環境がないところには従来の方法で対応でき、システム切り替えの混乱はほとんどないと思われます。具体的には以下のようになります。

＊Ｗｅｂ登録は経費節減になります。会社、学校関係の方には、是非お薦めください。

新システムの流れ

1．各チームは、日本協会ホームページにアクセスし、「Ｗｅｂ登録ページ」に入る。

〈Ｗｅｂ登録可能日を４月１日とする。それまでは、アクセスできない。〉

2．入力手順に従って、入力をしていく。

3．全て入力し終えたら、確認をする。

4．確認をして、間違いがなければ送信をする。

5．送信した画面が返信される（チーム登録番号、個人登録番号が自動割り当てされる）ので、そのページをプリントアウトする。

この時点では、「仮登録」であり、登録用紙が日本協会に到着することで「本登録」とする。

6．その返信には、ユーザー名と初期パスワード（変更可能）が添付されるので、それを必ず控える。

7．プリントアウトした用紙（登録用紙）を、４部（学連以外）又は５部（学連）作成する。

１部はチームが保管し、残り３部を所属都道府県協会に郵送する。学連所属チームは所属地区学連に残り１部を郵送する。提出期限は、各都道府県協会が設定した期日とする。

8．登録料は、別途所属都道府県協会および所属団体が示した方法・期限で送金する。

9．都道府県協会は、送付されてきた登録用紙（Ｗｅｂ登録用紙および従来の登録用紙）に、都道府県協会の印を押し、１部を都道府県協会の控えとする。残り２部を種別・男女別に分け、集計作業をした後日本協会に送付する。一方、登録用紙を送付してきた

チームに登録証を発行する。

10. 日本協会事務局は、送付された２部の内、１部を原簿として都道府県別に種別毎にファイルし、残り１部をＰＣ入力業者に送付する。
11. 入力業者は、Ｗｅｂ登録されていないチームについて、入力作業をする。
12. 入力作業完了後、Ｗｅｂ登録できなかったチーム分をプリントアウトし、日本協会事務局に送付する。その際に、その後Ｗｅｂ対応ができるように、ユーザー名、初期パスワードを添付する。
13. 日本協会事務局は、各都道府県協会にそれを送付する。
14. 各都道府県協会は、該当チームにそれを送付する。
15. 該当チームは、チーム番号および個人番号を登録者に知らせる。
16. 登録者は、登録番号を登録証に記入する。

新規追加登録

・Ｗｅｂ登録をしたチームには、ユーザー名とパスワードを登録することで、データベースにアクセスすることができるので、新規追加登録はいつでも可能である。しかし、それまでに入力されているデータを修正することはできない。新規追加登録をした場合は、所定の「新規追加登録用紙」に記入し、そのコピー２部と共（計３部）に、所属都道府県協会に追加登録料（個人登録料がある種別は）と共に送付する。個人登録料がない種別も必ず所定の「新規追加登録用紙」を所属都道府県協会に送付する。以後の流れは上記チーム登録の場合と同じ。

抹　消

・Ｗｅｂの「抹消届け」欄に、個人番号、氏名、生年月日を入力する。その場合も、別途所定の「抹消届用紙」に記入しコピー２部（計３部）を、所属都道府県協会に提出する。

移籍追加登録

・抹消されたことを前チームに確認の上、新規追加登録と同様に処理する。

＊Ｗｅｂ登録できないチームは、従前通りの作業で行う。

旧データベースとの対応

新システムによるデータベースとなるが、旧データベースは一括登録が終了した時点で、整理した上で新データベースに追加補充する形で残され、今まで蓄積されたデータは無駄にならない。

登録番号

現在の番号付与の方法では、１個人が複数の番号を所持することになっており、システム的にも統一ができない。そこで、ＰＣシステム切り替えを期に新たに番号を発行し、整理を行う。

＊本年度の日本協会一括登録締切を５月24日に設定しています。出来るだけ多くの競技者を一括登録で登録していただきたいと思いますので、各チームの都道府県協会への提出締切は、出来れば５月10日以降に設定して下さい。

Ｗｅｂ登録の流れ（┈┈┈▶ 電子による流れ、───▶ 用紙の流れ）

月　旬	項　目	日本協会	都道府県協会	チーム
4月1日		ＨＰ公開┈▶ {サーバー}◀┈ 〈データベース〉┈▶	（番号自動発行）	・入力 ・確認 ・登録 ・プリントアウト ・コピー
5月中旬		整理作業◀─ 原薄管理 入力業者 サーバー管理	整理作業◀─ ─発送・登録証発行─▶	発送 記入・所持

上記仕様は、2月現在の予定であり、変更されることもあります。

「シーアンドエス」が日本協会オフィシャルスポンサーに

マーケティング委員会の発足について

最近のスポーツを取り巻く環境は、長期化する不況や、企業の構造改革の影響を受けて厳しい状況が続いています。あらゆる企業スポーツでは休・廃部が続いており、当協会のチームも例外ではありません。また、学校スポーツにおいても少子化問題、学校部活動の指導者不足（生徒が少ないために新教員採用枠の減少など）により、深刻な状況となっております。

日本協会では、新世紀の飛躍を期し、人々の楽しみや喜びをもたらし人生をより豊かにし充実したものとするという文部科学省のスポーツ振興基本計画に基づき、

①総合型地域スポーツクラブの育成
②オリンピックチームの育成、強化
③スポーツに親しむ基礎を培う学校体育、運動部活動などの充実

などを支援するため、マーケティング活動を展開したいと考えております。

スポーツマーケティングは普通のマーケティングと相違し、体感や感動を売るものです。地域、学校、企業、そして行政に当協会、団体、連盟そして指導者、選手が一体となり、ハンドボール界全体の意識を高めて、魅力的な活動を通じてスポンサー企業とより深い結びつきを構築することを目標としています。

どのような状況下でもハンドボールを支援して頂ける企業を見出し、長く、深い関係を築きたいと願っています。当協会全体で、スポーツ企業に対し何が役立つことになるかを十分に検討し、効果的な支援活動になるための調査や、事業を推進するためのマーケティング委員会を目指しています。

マーケティング委員会新設に伴い、その第1号として（財）日本ハンドボール協会は、シーアンドエスグループとオフィシャルスポンサー契約を結びました。日本協会は、以前株式会社サンクスアンドアソシエイツと契約を結んでおりましたが、今年度からは、サークルケイ・ジャパン株式会社、株式会社サンクスアンドアソシエイツ並びに、ときめきドットコム株式会社の3社をまとめた「シーアンドエスグループ」との協賛契約を結ぶことになりました。

平成14年度はときめきドットコム株式会社から協賛金を受け、15年度以降は双方協議することになっています。

協賛内容は、日本代表チームが出場するすべての大会のユニフォームにシーアンドエス、サークルK、サンクスのロゴを露出すること、また、「シーアンドエスグループ」は、日本ハンドボールチームを応援しています」のフレーズを宣伝物に入れることになっています。

ASIA NATIONAL CIRCUIT 2002

今年も下記日程で「アジアナショナルサーキット2002」が神戸をはじめとする近畿圏で開かれる。今大会は来年のアテネオリンピックアジア予選を見据えた日本代表にとっては直接の相手となるだけに前哨戦としても大変興味深い大会となる。

日程	時間	対戦	会場
4月24日（水）	15：00～	オープニングセレモニー	和田山勤労者体育センター ☎0796－72－3845
	16：00～	日本代表P VS 中　国	
	18：00～	日本代表 VS チャイニーズタイペイ	
4月25日（木）	17：30～	日本代表P VS 韓　国	生駒市市民体育館 ☎0743－74－4701
	18：00～	日本代表 VS 中　国	田辺中央体育館 ☎0774－62－1501
4月26日（金）	16：30～	日本代表P VS チャイニーズタイペイ	彦根市民体育センター ☎0749－23－2293
	18：30～	韓　国 VS 中　国	
4月27日（土）	15：00～	韓　国 VS チャイニーズタイペイ	グリーンアリーナ神戸 ☎078－796－1155
	17：00～	日本代表 VS 日本代表P	
4月28日（日）	13：00～	中　国 VS チャイニーズタイペイ	グリーンアリーナ神戸 ☎078－796－1155
	15：00～	日本代表 VS 韓　国	

スペイン留学近況報告

スペイン事務所　田中　茂

※宮崎・内田は全日本と合流している為、試合はなし

1月・2月の選手状況報告（試合結果中心）

加　藤

1月12日
LA　POCA　23－27　BM　HUESCA
（プレータイム20分　得点1）
1月20日
LA　POCA　28－30　GRANOLLERS
（プレータイム15分　得点0）
1月27日
LA　POCA　33－26　BARCELONA
（出場なし）
2月2日
LA　POCA　24－26　ADRIANENC
（プレータイム10分　得点0）
2月10日
LA　POCA　30－27　TRES　DE　MAYO
（プレータイム30分　得点5）
2月17日
LA　POCA　29－27　OAR　GRACIA
（プレータイム15分　得点0）

★試合視察報告

加藤本人にチーム戦術・言葉の問題があり、試合にも出場出来なかったり、出場しても15分～20分と出場機会が少ない。

本人も攻撃に対し消極的になり、パス回しが多くシュートを狙われないためプレーが十分に出来ていない。

今まで以上に積極的な姿勢が必要であること（得点を取れる選手になる）。個人プレーでも得点が取れる選手はチームとして必要で監督も試合に、出場させるといったことを本人にも伝えた。

戦術・言葉ではなくハンドボールの絶対的な実力で必要な選手にならなくてはならない。

本人の意識の変化とともに、今後も期待したい。

小　倉

1月12日
ADRIANENC　20－20　GAVA
（プレータイム40分　得点5）
1月19日
ADRIANENC　23－22　HUESCA
（プレータイム20分　得点1）
1月27日
ADRIANENC　26－24　GRANOLLERS
（プレータイム30分　得点5）
2月2日
ADRIANENC　26－24　LA　ROCA
（プレータイム30分　得点0）
2月9日
ADRIANENC　25－25　BARCELONA
（出場なし）
2月16日
ADRIANENC　27－30　TRES　DE　MAYO
（出場なし）

★試合視察報告

今年に入りチーム状態も良く6戦3勝1敗2分と上位チームを苦しめる存在になっているが、小倉本人は試合によっての好不調の波が激しく、プレーの安定感がない。

やはり、小倉も同様に攻撃においての積極性がない。チームに全て合わせているところがあり、自分本来のスタイルを出しきれていない。

本人がもっと仲間に指示を出しチームを引っ張っていったり、仲間を利用する事が出来ないと今までと同じ状態が続いていく。

また、ＤＦが出来ないため、ＯＦのみの出場となっている。ADRIANENCの監督はＤＦ練習になると積極的ではないとのこと。

まだ、本人の意識が低いような気がする。

現在は、2月8日の練習中に肩を脱臼した為にチームトレーニングではなく下半身を中心に個人トレーニングを行っている。

医者の診断では3週間はボールを使うトレーニングは控えるようにとのこと。

柳　本

1月12日
OAR　GRACIA　26－26　BORDILS
（出場なし）
1月26日
OAR　GRACIA　16－26　CASTELLON
（プレータイム20分　得点1）
1月20日
OAR　GRACIA　26－29　GAVA
（プレータイム40分　得点4）
2月3日
OAR　GRACIA　30－31　HUESCA
（プレータイム30分　得点2）
2月9日
OAR　GRACIA　28－31　GRANOLLERS
（出場なし）
2月17日
OAR　GRACIA　27－29　LA　ROCA
（プレータイム60分　得点2）

★試合視察報告

柳本は比較的安定して試合に出場している。どの試合も得点自体は少ないものの、シュート確立は非常に高くまた1対1からのフェイントによる7ｍＴの獲得、ＤＦを引きつけてのアシストパスなどで、チームに大きく貢献している。

チームにも馴染み、コミュニケーションも非常に良く取れている（2月9日の試合は膝の調子が悪く出場機会はなかった）。

チーム成績は今年に入って1勝も出来ていないのが現状です（主力選手の試合中の暴力により2人が4試合の出場停止処分）。

また、本人も年末年始と全日本活動を共にしたことにより、自分に足りないものを見つけ、今まで以上に刺激を受けた事により、全ての事に積極的に取り組んでいます。

協会だより

平成14年2月度 常務理事会

［日　時］平成14年2月9日（土）
10：00－12：00
［場　所］青山メトロ会館
［出席者］山下副会長、大西専務理事、常務理事4名、監事2名、参事3名、事務局5名

【議事】

1. 平成14年度事業計画について
下記の変更点が説明された。
・企業チームの休廃部、存続の問題を課題として取り組んでいく。
・女子のリーグ運営について、リーグ運営の工夫をする。
2. 平成14年度事業予算について
以下の説明がなされた。
○収入について
チーム数減による減額
一般登録者の増加
機関誌広告はC＆Sのスポンサーを得て増額
○支出
団体補助の増額
普及指導者育成に関して増額
審判関係予算の増額予定
3. マーケティング委員会について
記者発表の件、及び趣旨説明、活動の基本方針、委員会メンバーについて説明があった。3月までに第1回の会合を開く予定。
4. スポーツ振興くじについて
日本協会負担が発生するので、補正予算を組み承認を受けるべきである。大至急要望書を取りまとめることとする。
5. プロジェクト21について
プロジェクト21について、評議員会後、午後・午前にわたり討議する事となった。機関誌への掲載については、討議後その取扱について決定する。
6. 2001ミズノメントール賞について
日本協会推薦者を決定した。
7. 理事の欠員補充について
欠員だった理事の補充者を決定した。常務理事を依頼する。
8. シーアンドエスについて
各種大会において弁当購入を依頼する。都道府県に日本協会負担で弁当を現物支給し、これに必要な分を上乗せし各協会で注文する方式を取る。ポイントカード作成及び弁当供給について、C＆S社と会合を持つ。
9. 平成14年度全日本総合について
平成14年度全日本総合について説明があり、承認された。
10. 裁定委員会について
裁定委員会規程について説明があり、承認された。
11. NTSについて
資料に基づき報告があった。
12. 日本リーグプレーオフについて
資料に基づき説明があった。審判はドイツNo1ペアーを折衝中である。
13. その他
前女子ナショナル監督に、日本リーグプレーオフの会場にて感謝状を贈呈する。
日本リーグ休廃部3チームに対して感謝状を贈呈する。

平成13年度 第3回全国理事会

［日　時］平成14年2月9日（土）
［場　所］青山メトロ会館
［参加者］山下副会長、大西専務理事、理事7名、理事代理2名、参事13名、監事3名

【議題】

〈総務〉
1.平成14年度事業計画について
資料に沿って、基本計画と重点計画が、次のように報告された（概略）。
①普及・指導に関する事業
・小学校への普及とNTSとの連携強化をはかる。
・指導関連で、JHA公認J級指導員の養成をはかる。
・B級公認コーチの養成講習会をルンド氏を招聘して実施する。
・指導者組織の整備を行う。
②競技運営に関する事業
・全日本総合の見直し。
③国際に関する事業
・アジアサーキットの実施。
④競技規則（審判）に関する事業
・審判員の資質向上、新競技規則の徹底をはかる。
・視聴覚教材の作成充実をはかり、VTRによる審判、コーチ・選手との認識統一をはかる。
・トップレフェリーの研修会を実施し、各県のトップレフェリーが全国大会へ参加するためには、研修会を経て派遣されるようにシステムを代えていく。
⑤競技力向上（強化）に関する事業
・アテネ強化施策を推進する。
⑥機関誌発行に関する事業
・質と内容の充実をはかる。
⑦企画・広報に関する事業
・プロジェクト21の推進をはかる。
・マーケティング委員会の設立をする。
・広報として、HPを中心とした活動を推進する。
⑧財務会計に関する事業
・スポンサーの確保と健全な経営を推進していく。
⑨日本リーグに関する事業
・企業の休廃部、存続を課題として取り組んでいく。
⑩総務に関する事業
・効率的な運営を課題としていく。
⑪がんばれハンドボール10万人会、サポート会員に関する事業
・一般ハンドボール愛好者の入会促進をはかり、名簿管理も適正に実施する。
⑫事業日程の確認
2. 平成14年度予算について

（常務理事会の項参照）
特別会計収支予算
・委託事業、単独事業、助成事業に関する予算案が提案された。
・アテネ強化特別委員会向けの予算案が提案された。
3. マーケティング委員会について
（常務理事会の項参照）
4. がんばれ10万人会サポート会
都道府県別のサポート会員の状況が報告され、10万人会の登録人口、約89000人との報告がされた。また、還元金の配布状況、還元金の試算表について報告された。今後の方針として、プレイヤーの保護者を対象に勧誘を行う。都道府県のサポート会員制度ととらえ、還元率を上げられるように、勧誘促進をはかる。登録人口も含め、ハンドボール関係者、支持者を10万人に届かせ、諸団体からの助成金を獲得しやすいようにする。
5. スポーツ振興くじについて
くじ資金配布説明について次のように状況報告がされた。
助成の対象の事業内容が決まっている。スポーツ活動推進事業が主に本協会の対象事業となる。助成率が決まっており、負担分は協会で手当する必要がある。単独事業、自己資金率の高いもの、継続事業であることが必要。交付スケジュールと交付を受けるための理事会承認が必要であることが確認された。
補正予算で事業予算の補正をすることが提案された。実施状況についての調査が8月に実施される。地方公共団体と競技団体（JOC、体協傘下）に交付されることが報告された。スポーツ活動助成として、助成金1000万円上限であり、機関誌などの事業を中心に考えていく必要がある。組織基盤強化事業として、専門職養成事業がある。
6. プロジェクト21についての報告があった。
7. 旅費規程について
旅費、宿泊費、日当の支払い規程について報告された。
8. 東アジア協議会について報告された。
9. 平成14年度登録について
・登録料の改定、登録業務の迅速化、登録証の色確認、追加登録・登録抹消などの用紙をA4に統一した。さらに、登録新システムの導入について説明された。
・WEB登録システムの稼働も可能になり、人件費の抑制、処理の迅速化、都道府県協会のデータ検索可能化がはかられるとの報告があった。
・中学校の登録が、来年度より導入される旨、確認された。
10 .2001年ミズノメントール賞候補について
日本協会からの推薦者が報告された。
11. 理事の欠員補充について
理事の欠員補充について諮られ、常務理事を依頼することとした。候補者の略歴が報告された。
12. シーアンドエスについて
スポンサー料に関して、既記者発表通りである。各種大会の弁当購入協力依頼がされた。弁当の注文のフローを、マニュアルに従って行う。都道府県に日本協会負担で、無料弁当を配布し、これに上乗せ分を各協会で注文する方式をとる。
〈競技運営〉
13. 平成14年度全日本総合選手権
トーナメント方式の変更について説明があった。男子JHL上位チームの登場をトーナメントの後半にもってくる等の報告がされた。
14. 裁定委員会
競技の判定などの疑義提訴に関する規程が提案された。内容として、IFの規程に準拠するようにした。また、裁定料を添えて提訴（採択された場合は返金）するなどの説明があった。
15. コーチレフェリーシンポジュウム他
普及のための組織作りの例示がなされた。コーチレフェリーシンポジュウム開催の要項、参加予定者94名、実技指導講習や新ルールの講習会も設定している。
B級コーチ養成講習会の実施について、その人選を検討中である。
小学校のハンドボールを広める必要があることが説明された。
16. JHA公認J級指導員規程について
来年度の予算措置を施しており、4月から実施する。
17. 平成12年度の高体連・中体連加盟状況について
平成13年度とのデータの照合、確認がなされた。
18. 平成14年度学校体育ハンドボール研究集会要項について
小学校関係者に広報、参加呼びかけが依頼された。
19. NTSについて
今年度の予定が終了した。U－16に有望選手がいること、指導者の参加が増加したこと、各企業から諸物品の提供があったことが報告された。高体連に対してプレゼンを実施し、NTSについて理解を得られた。ブロックの技術委員長、県の委員長（NTS）の選出依頼があり、事務責任者会議で改めて依頼する旨、説明された。NTSと指導委員会、強化委員会との合同会議を開催する予定である。
20. 高知国体ブロック別割当数について
資料の通り報告された。
21. 静岡ジャパンオープントーナメント実施要項
資料の通り報告された。
○ビーチハンドボール報告
ワールドゲームスの中での、世界選手権として開催し、成功裡に終ったことが報告された。
〈強化〉
22. 2003年世界選手権アジア予選
グループ分けで韓国、サウジアラビアと対戦することになった。壮行会を実施した。2／4日に現地（イラン）着の旨、報告された。
23. アテネオリンピックアジア予選
来年（2003年）9月に、兵庫県での開催を計画していることが報告された。
24. 外国人コーチについて
外国人コーチ契約について報告された。若手の育成のため、日本協会も費用を負担することが報告された。
25. 女子ナショナル監督について
女子ナショナルチーム監督の辞意をうけ、強化拠点を中心として日本代表を強化したいことが強化部長より発案されている。前監督には、日本協会として感謝状を贈る予定であることが報告された。
新監督が推薦され、コーチとともに所属企業もこの件について了承している。
26. アテネ強化特別委員会
日本協会の中に定着させていきたい旨、報告された。
〈日本リーグ〉
27. 日本リーグ日程変更

世界選手権の予選に伴って、大幅に変更されたことが報告された。
28. プレーオフ（ANACUP）について
（常務理事会の鴻参照）
〈大会報告〉
29. 女子世界選手権結果、男子欧州遠征結果
中国の伸張がめざましいとの報告があった。JOCとして視察の感想として、女子は小柄ながらよくやったこと、ロシアなど大型選手がスピードアップしていること、攻撃回数が増加していることが報告された。こうした世界の傾向から、オールラウンダーの選手育成を小学生から行うことの必要性が強調された。
30. 平成13年度全日本総合選手権、JOCジュニアオリンピックについて実施報告がされた。

平成13年度 第2回評議員会

［日　時］平成14年2月23日（土）
13：00～
［場　所］明治神宮会館第1研修室
［参加者］評議員・理事合計52名

【議　題】

1. 平成14年度事業計画について
（全国理事会の項参照）
2. 平成14年度予算について
（全国理事会の項に参照）

【質疑】

小学生大会の日中韓合同開催について日本協会の補助はあるのか。主催を日本ハンドボール協会として行えないか。
→新しい事業を協会が支えていくことになる。良いものは発展させていく方向で検討する。協会に企画書提出して欲しい。
車いすハンドボールの支援とは何か。
→障害者スポーツに対する社会的な情勢を受け、必要性を感じており、援助の方策を検討していく。
西日本小学生交流ハンドボール大会は、日本ハンドボール協会主催となっているが、補助金などは出ているのか。「交流」の表現はふさわしくないのではないかと意見があった。
→香川で実施できなくなったものを、岡山で実施している。中国地区のブロック大会となっており、協会の規定でブロック大会への補助は出ている。「交流」は特に指導していない。
「交流」では、市町村教育委員会の補助金は出ない。西日本の各県には、大会の案内が届いているのか。
→担当常務理事を中心に対応していく。
3. 理事の欠員補充について
欠員となっていた理事の補充について諮られ、承認された。
4. 高専ハンドボール専門部の日本協会加盟の件
日本協会への加盟承認がなされた。

【報告事項】

〈総務〉
5. マーケティング委員会について
（全国理事会の項参照）
質疑：メンバーについて→その業種で代表する人を中心に編成した。
6. がんばれ10万人会
（全国理事会の項参照）
・還元率について説明された。各都道府県の会員が50名を超えると還元率が大幅に上がることを説明があった。郵便振り込みの利用を促進して欲しい。
・サポート会員を各都道府県2桁になるように勧誘協力依頼がされた。
7. スポーツ振興くじについて
（全国理事会の項参照）
組織基盤強化事業として、専門職養成事業があり、候補者が報告された。
スポーツ振興をはかるために、くじを利用しようとしている。ハードウェアとしてのナショナルトレーニングセンター、ソフトウェアーとして一貫指導体制、ヒューマンウェアとして指導専門職の養成がある。
8. 東アジア協議会について
西アジアの大会運営について多くの問題がある。これに対し、東アジアの国々が団結して対抗していく必要がある。そのイニシアチブを日本がとっていきたい。その一環として神戸で東アジアサーキット時に東アジア協議会を開催していきたい。
9. 平成14年度登録について
・登録業務の確認がなされた。
・事務連絡責任者会議で詳細が説明される。
10. 2001年ミズノメントール賞候補について
日本協会推薦者が報告された。
11. シーアンドエスの件について
（全国理事会の項参照）
12. プロジェクト21について
・日本ハンドボール協会構造改革の企画構想案と推進状況が報告された。
・将来戦略、構造改革の5つのポイントが提案された。
・都道府県の構造改革と一致させながら少しずつ進めていきたい。協力が依頼された。

〈競技〉
13. 平成14年度全日本総合について
（全国理事会の項参照）
・将来構想として、地区大会（高校生も含めて）を行い、中央（東京）で本大会を開催する方式に。
14. 裁定委員会
（全国理事会の項参照）
15. NTS
（全国理事会の項参照）
16. 2003年世界選手権アジア予選
（全国理事会の項参照）
・開催地の現状が報告される。宮崎選手がベスト7に選出された。
・新競技規則の運用確認はできなかった。IHFの派遣レフェリーなし、日本への審判派遣依頼が遅く、対応が不可能であった。また、日韓中の派遣レフェリーはなかった。IHFにきちんと連絡して、公正な運営を計らなければならない。
17. アテネオリンピックアジア予選
来年（2003年）9月兵庫開催を計画している。

〈日本リーグ〉
18. 日本リーグ日程変更
（全国理事会の項参照）
・高円宮殿下のご来場があった。
19. プレーオフ（ANACUP）について
（全国理事会の項参照）
20. その他
「ハンドボール研究」について。
学校体育に関して、小学校で盛んになることが競技人口の増加、普及に役に立つことが述べられた。

がんばれハンドボール10万人会　サポート会特別会員

日立栃木チームへの暖かいご声援まことにありがとうございました

日立栃木ハンドボール部
私設応援会
日立栃木熱援会

私たちはハンドボール競技を応援しています

北海道
山辺文彰

栗脇　凝

(財)神奈川県体育協会副会長
神奈川県ハンドボール協会会長
斉藤達也
〒220―0041
横浜市西区戸部本町四―八
☎045―324―1221

塩川安賢
〒143―0024
大田区中央三―十三―十一

元松山大学教授　元愛媛大学講師
元日本ハンドボール協会理事
元全国高等学校ハンドボール部常任委員
元愛媛県ハンドボール協会理事長
元四国ハンドボール協会理事長
松山市石手3丁目3番20号
越智　武
☎089―977―1648

総社市ハンドボール協会
事務局長　村木理英
有限会社アイ薬局代表取締役
〒719―1156
総社市門田566―2
☎0866―94―1741

大阪府ハンドボール協会顧問
山田　稔

「がんばれハンドボール10万人会」2月新規入会・継続更新会員の紹介

【青　森】川島卯太郎
【宮　城】高橋長偉
【茨　城】大村　久
【群　馬】星野英雄、関口晴久、周防幸子、新井弥生、
　宇佐美サチ子、宇佐美智子、永井栄子
【東　京】小野澤幹郎
【神奈川】田村修治
【石　川】寺垣俊彦、米谷半平
【三　重】栗本士郎、岩井美穂、岩井啓子、岩井鉱治、
　藪下由紀子、村山津也子、池辺健二、山川敬止、
　広政宜孝、上村宗男、四方篤、櫛田亮介、堤　政近、
　荒木誠司
【京　都】片山健史
【鳥　取】松原理裕
【山　口】織田逸子、井川美穂、望月直美、渕　健児

【お詫びと訂正】

■井薫氏の連絡先の訂正

前号22ページに掲載いたしました井氏の連絡先電話番号に誤りがありました。

正しい番号は TEL・FAX ０９６－３８２－３６３３

お詫びして訂正させていただきます。

■Ｊ級指導員認定講習会・講習内容（ガイドライン）の訂正

前号24ページに掲載いたしました「Ｊ級指導員認定講習会」の「ガイドライン」に一部訂正がありました。あらためてここに訂正された「ガイドライン」部分のみ掲載いたします。

㈶日本ハンドボール協会公認　Ｊ級指導員資格認定講習内容（ガイドライン）

内　容	時間
１　子供理解 ①７才～15才までの身体的、精神的発育に関する理解 ・筋肉、運動神経の発達、心肺機能の発達等について ・自己認識、集団意識の発達等について ・理解力の発達について（規則・規律の理解） ②スポーツ障害に関する理解 ・発育段階における運動障害について ・ハンドボールと運動障害について	１
２　活動の方法について（具体的な事例の提示） ①スポーツの役割と意義（スポーツマンシップ、ルールの正しい理解） ②スポーツ教室設立、運営の方法について ③指導内容（プログラム）について ３　活動中発生する事故への理解と対策 ①事故に対する責任と保証 ・過去の事例、配慮すべきこと ・スポーツ保険等について	２
４　実　技 ・興味を持たせる（楽しく）基礎基本の動きの習得 ・理解し、自ら進んで取り組める練習法等	３

【4月の行事予定】

〈会　議〉

★４月13日㈯
　常務理事会　東京

〈大　会〉

★４月24日㈬～28日㈰／全国各地
　アジアナショナルサーキット2002

★編集後記★

東京都世田谷区深沢。日本リーグプレーオフの行われた駒沢体育館に近いこの街は、毎年この時期になると、満開の桜が桃色の街路灯を創り出す。私が大学進学の為に上京し、この街に住むようになった５年前。この桜が創り出す鮮やかな風景に、新生活の明るい未来を感じたものだ。以後、毎年この時期に、この街の桜を愛でながら新年度のスタートを迎える事となる。

我々に温かい気分を与えてくれる桜。とかくこの時期の満開の姿のみに注目しがちで、晩秋以降の長い冬の時代に春の準備をしている事を感じる機会は少ない。

日本のハンドボール界を取り巻く環境は相変わらず厳しい。日本代表は苦戦を強いられ、国内トップチームの休廃部が続き、競技人口の劇的な増加からは程遠い。長い冬の時代にある。だからこそ今、満開の桜を咲かすべく、次の時代に備えなくてはならない。多くの人がハンドボールを楽しめ、かつ日本代表や日本リーグが魅力ある環境に向けてである。

新年度がスタートした。多くの方と共に、将来満開の桜を日本球界に咲かせる為に、微力ながら準備を始める機会に出来ればと思う。　（森山一馬）

HAND BALL CONTENTS APR

（登録チームの講読料は登録料に含む）

柔らかな感触で、最適なバウンド!

新発売

PKCH3-AD DX
5,500円

new

PKCH2-AD DX
5,400円

PKCH1-ADJ
3,600円

手縫い・国際公認球

PKCH3-AD
4,600円

PKCH2-AD
4,500円

PKCH3-ADR
2,800円

PKCH2-ADR
2,700円

明星ゴム工業株式会社

商社から進化します。

今、あなたの知らない伊藤忠商事が、動き始めました。
その目的は、ニュー・エコノミーゾーンを強化して、新たな産業を開拓していくこと。
そして、商社という枠に捕われることなく、全てのフィールドを見据えて、ビジネスを勝ち抜いていくこと。
商社を超えて"戦略的企業集団"へと進化する伊藤忠商事。その可能性は、まだまだ無限大です。

伊藤忠商事株式会社

URL http://www.itochu.co.jp

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第四二八号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十四年三月二十六日印刷 平成十四年四月一日発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 三四八一―二三六一
振替 〇〇二〇〇―七―一〇二九三
編集兼発行人 大西武三
定価 年間三三〇〇円